平成26年第１回嬉野市議会定例会会議録						
招集年月日	平成26年３月３日					
招集場所	嬉野市議会議場					
開閉会日時及び宣告	開議	平成26年３月10日　午前10時07分		議長　田口好秋		
	散会	平成26年３月10日　午後３時36分		議長　田口好秋		
応（不応）招議員及び出席並びに欠席議員	議席番号	氏名	出欠	議席番号	氏名	出欠
	１番	生田　健児	出	10番	山口　政人	出
	２番	宮﨑　良平	出	11番	芦塚　典子	出
	３番	川内　聖二	出	12番	大島　恒典	出
	４番	増田　朝子	出	13番	梶原　睦也	出
	５番	森田　明彦	出	14番	田中　政司	出
	６番	辻　浩一	出	15番	織田　菊男	出
	７番	山口　忠孝	出	16番	西村　信夫	出
	８番	田中　平一郎	出	17番	山口　要	出
	９番	山下　芳郎	出	18番	田口　好秋	出

地方自治法第121条の規定により説明のため議会に出席した者の職氏名	市長	谷口　太一郎	福祉課長	
	副市長	中島　庸二	健康づくり課長	
	教育長	杉﨑　士郎	農林課長	納富　作男
	総務部長	筒井　保	学校教育課長	神近　博彦
	企画部長	小野　彰一	収納課長	堤　一男
	健康福祉部長	杉野　昌生	税務課長	宮﨑　康郎
	産業振興部長	一ノ瀬　真	観光商工課長	山口　健一郎
	建設部長	中尾　嘉伸	健康福祉課長	
	教育部長 教育総務課長兼務	江口　常雄	茶業振興課長	宮﨑　繁利
	会計管理者	中島　直宏	建設・新幹線課長	中島　憲郎
	総務課長	池田　英信	環境下水道課長	横田　泰次
	財政課長	井上　嘉徳	水道課長	
	市民課長	井上　親司	農業委員会事務局長	嬉野　奉文
	企画企業誘致課長	田中　秀則	会計課長	
	地域づくり・結婚支援課長	山口　久義		
本会議に職務のため出席した者の職氏名	議会事務局長	永江　邦弘		

平成26年第１回嬉野市議会定例会議事日程

平成26年３月10日（月）

本会議第２日目

午前10時　開　議

日程第１　　議案第18号嬉野市総合計画後期基本計画についての訂正について

日程第２　　嬉野市農業委員会委員の議会推薦について

日程第３　　一般質問

順次	通　告　者	質　問　の　事　項
1	山　口　政　人	１．今後の市政運営について ２．市町村合併について ３．県立高校の再編について ４．下水道事業について
2	山　下　芳　郎	１．市長再選後の政策について ２．市営住宅建設について ３．高校の再編成計画について
3	山　口　忠　孝	１．商店街再生について ２．ＩＣＴ教育と教育について
4	芦　塚　典　子	１．市政運営について ２．街なみ環境整備事業について
5	織　田　菊　男	１．嬉野市の人口減対策について ２．農商工連携について ３．小、中学校の土曜日開校について

午前10時７分　開議

○議長（田口好秋君）

皆さんおはようございます。それでは、本日の会議を開きたいと思います。

本日の出席議員は全員であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第１．議案第18号嬉野市総合計画後期基本計画についての訂正についてを議題といたします。

本日、市長から本定例会提出議案のうち、議案第18号　嬉野市総合計画後期基本計画につ

いての訂正の申し出がありました。文書でお手元に配付しております。

それでは、議案の訂正について説明を求めます。企画部長。

○企画部長（小野彰一君）

皆さんおはようございます。それでは、議長の許可をいただきましたので、議案の訂正について御説明をさせていただきます。

今回、議案第18号　嬉野市総合計画後期基本計画につきまして、提出をさせていただいておりましたが、お手元に配付させていただいております正誤表の９項目につきまして、正誤表の中身で訂正をお願いしたく、ここに提案をさせていただきました。

中身につきましては、１項目めから９項目めまであるわけですけれども、まず１番目につきましては、正のほうで見ていただきますと「現在の経済活動の」という文言の挿入でございます。

それと、２項目めにつきましては、事業名の変更でございます。

３項目めの医療センターにつきましては「独立行政法人国立病院機構嬉野医療センターの前」という独立行政法人以下の文言を挿入させていただいております。

４項目めにつきましては、事業名の訂正でございます。

５項目めにつきましても、独立行政法人国立病院機構の挿入でございます。

６項目めにつきましては、真逆の言葉でございますが「増加」を「減少」ということで改めるものでございます。

７項目めにおきましては、保険給付費につきまして、文言を訂正していくものでございます。

８項目めにつきましても、文言を見直した訂正でございます。

９項目め、最後ですけれども、資料館の建設の検討でございますが、これはもう「資料館の建設」ということで訂正をするものでございます。

あとこの基本計画を提出しておりますが、誤字脱字、誤植の面がありました。その分につきましては、例えば、障害の「害」の漢字の記載を平仮名に改めるもの等々につきましては、今後、こちらのほうで修正をいたしまして、製本といいますか、冊子のほうで差しかえという形でさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

これで説明を終わります。

山口要議員。

○17番（山口　要君）

訂正の分で、17ページのものは、これは、この部分はきちんと直っていますけれども。「生かした経済活動」、経済活動、これは入っていますけれども。もう後でいいです。

（「それは資料なんじゃないですか。議案の17ページ」と呼ぶ者あり）

これでしょう。この前もらった分。（「そいけん、それはあれでしょう……」「合同常任委員会の資料じゃなくて、議案の……」「議案のほうやけん」と呼ぶ者あり）

ああ、議案のほう。ああ、そっか、訂正した分ね。はい、わかった、わかった。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。（「いいです」と呼ぶ者あり）

午前10時12分　休憩

午前10時12分　再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

皆さん、よろしいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）

それでは、これで説明を終わります。

お諮りいたします。議案第18号　嬉野市総合計画後期基本計画の訂正については、これを許可することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第18号　嬉野市総合計画後期基本計画の訂正については、これを許可することに決定いたしました。

日程第２．嬉野市農業委員会委員の議会推薦についてを議題といたします。

議会推薦農業委員の辞任に伴い、３月５日付で嬉野市長より後任の委員の推薦について依頼があっております。推薦委員数は１人です。

後任の農業委員として、織田菊男議員を指名し、推薦したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、議会推薦の農業委員会委員として、織田菊男議員を推薦することに決定いたしました。

日程第３．一般質問を行います。

それでは、通告順に発言を許します。

10番山口政人議員の発言を許します。

○10番（山口政人君）

皆さんおはようございます。議席番号10番、山口政人です。議長の許可を得ましたので、一般質問をいたしたいというふうに思います。

傍聴席の皆さん方には、早朝から本当に大変御苦労さまでございます。

その前に、訂正をお願いしたいというふうに思います。

今後の市政運営について、１番の「去る２月26日執行」となってボランティアが「１月26

日執行」に訂正をお願いしたいというふうに思います。

それでは、今回の市長選挙は、薄氷の勝利という新聞記事にもあったように、厳しい選挙戦であったというふうに思います。ともあれ、今後４年間、市政運営のリーダーとして再選されたわけですから、嬉野市のために御尽力をいただきたいというふうに思います。

嬉野市長選挙の結果について伺いたいというふうに思います。

１番、去る１月26日執行の嬉野市長選挙の結果について、市長はどのような感想を抱いたのか、伺いたいというふうに思います。

２番目、この選挙結果から、今後の市政運営についての所見を伺いたいと思います。

３番目、この選挙結果は、谷口市政に対しての評価とともに、嬉野市の行政全般に対しての評価とも考えられますが、今後のさらなる市民目線での行政サービスについての市長の見解を伺いたいと思います。

４番目、超高齢社会、人口減少を見据えた市政運営の基本的考えを伺いたいと思います。

次に、市町村合併についてであります。

鹿島市、太良町との合併は今後考えられないか、伺いたいというふうに思います。

次に、県立高校の再編についてであります。

市内に２つある県立高校の存続について考えを伺いたいと思います。

次に、下水道事業についてであります。

下水道事業未整備地区の今後の取り組みを伺いたいというふうに思います。

壇上においては以上でございます。再質問につきましては、質問席のほうから伺いたいというふうに思います。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対し、答弁を求めます。谷口市長。

○市長（谷口太一郎君）

皆さんおはようございます。それでは、山口政人議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

今後の市政運営の前に、今回の選挙結果についてということでございます。お答えを申し上げます。

今回の嬉野市長選挙により、多くの市民の御支持をいただき、市長として３期目を務めさせていただくことになり、重責を感じておるところでございます。今後４年間、市民の皆様の御期待にこたえるよう、真摯に努力をいたしたいと思います。

今回の選挙につきましては、嬉野市になって初めての市長選挙で、嬉野市のさまざまな課題への取り組みと私自身のこれまでの市政運営について御理解をいただいたものと考えておるところでございます。その結果として、多くの方々が私の政策へ御理解をいただき、御信任をいただいたものと考えておるところでございます。

次に、２点目のこれからの行政全般に対する所見をということでございます。

過去２期８年間、新市における行財政改革を中心とする課題はもちろん、市町融和や旧町における課題などに取り組んでまいりました。市民の皆様から評価をいただいた、前期に取り組んでまいりました事業の成果を超える成果を求めて、努力をいたしてまいりたいと考えております。

今回の選挙の際、私自身に課しました課題をより力強く、未来をテーマにして、地域や新幹線、商業、戦略ＰＲ、健康福祉、環境子育て、教育文化という項目を掲げまして、皆様の御理解をいただき、３期目を迎えることになりました。これらの課題を確実に、スピーディーに実行することが嬉野市の大きな発展の力になるものと信じておるところでございます。それと同時に、市民の皆様とのお約束を果たすことになりますので、市長３期目就任を契機として、再度原点に立ちながら、歓声の聞こえる嬉野市の実現に向け、皆様の御協力をいただきながら、確実に推進してまいる所存でございます。

加えて、将来人口の見通し等については、総合計画の後期基本計画の中でも記述されているとおりでございまして、65歳以上の老年人口は、計画の最終年度には32.9％、ほぼ３人に１人が高齢者になると予想されているところでございまして、これは全国的な傾向で、嬉野市もそのような傾向が進んでいくと考えておるところでございます。

そういう中で、特に私は健康福祉を政策の柱として掲げております。幸いにして、嬉野市は佐賀県内で男女とも平均寿命をトップとすることができましたが、そこで、日本一元気で長生きできる市を目指して、健康寿命を延ばしていきたいと考えておるところでございます。

次に、鹿島市、太良町との合併は考えられないかということでございます。

過去にも合併について御質問をいただいておりまして、時間は経過しておりますけれども、それぞれ考え方は当時と変わっておらないと思っております。当時、御答弁を申し上げましたとおり、鹿島市と太良町とは近隣でございますので、今まで以上に連携を深めていきたいということでございまして、私どものほうから御提案を申し上げまして、職員の幹部クラスでの交流を始めたところでございまして、今後、より深めていきたいと思っておるところでございます。

鹿島市、太良町とは任意合併協議会を設置して取り組んでおりましたが、脱退され、非常に残念に思っているところでございます。

現在では、国の方針として、合併推進はなされておらず、地方分権の動きの中でそれぞれに自主的な確立を目指して、努力をしているところでございます。

嬉野市といたしましては、今回の合併のメリットを最大限生かすべく施策を推進しておるところでございまして、現在行っておりますまちづくりの努力を継続したいと考えておるところでございます。

以上で山口政人議員のお尋ねについて、お答えといたします。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午前10時22分　休憩

午前10時22分　再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

市長。

○市長（谷口太一郎君）

それでは、追加してお答え申し上げたいと思います。

県立高校の再編についてお答え申し上げます。

昨年、11月14日に県の教育委員会より行政部局と教育部局に会議の出席要請があり、その後、大きくマスコミ報道がなされたところでございます。その後、12月26日に県教育委員会より市庁舎を訪問され、教育長とともに、概要の説明を受けたところでございまして、一貫して私は反対の意見を申し上げたところでございます。

前回の高校再編の折、嬉野高校が総合学科になり、そのとき、将来的には変わらないものと考え、努力をしてきたところでございまして、残念であると申し上げたところでございます。

また、塩田工業は西部地区で唯一の工業系の高校で、卒業後も地元に残り、多くの卒業生が働いておられるところでございます。そのような特色あるそれぞれの高校が少子化という理由だけで諸先輩が築き上げてきた伝統ある高校を再編するということについては納得いかないところでございまして、県におかれましては、ぜひ発想を変えて、少子化にあわせた高校を考えていただきたいと強く申し上げたところでございます。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午前10時24分　休憩

午前10時24分　再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

次に、下水道事業未整備地区の今後の取り組みをということのお尋ねでございまして、未整備地区につきましては、26年度に生活排水処理整備構想の見直しや整備手法を決定し、例規の制定などを行い、着手まで１年から２年後にと考えておるところでございます。

以上で山口政人議員のお尋ねについて、お答えといたします。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

３点目の県立高校の存続についての考え方ということでございますので、お答えを申し上げたいと思います。

高校再編につきましては、去る12月26日に県教育委員会より市庁舎を訪問され、市長とともに説明を受けました。私ども嬉野市教育委員会としましては、そのまま２校を維持していただくということを市長と気持ちを一つにしてお願いしたところでございます。

また、２月６日の木曜日に嬉野市公会堂で県立高校の再編についての説明会がありましたので、聞きにまいりました。高校再編の名称は「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備計画のたたき台」と称されて、説明会がありました。この再編整備計画の内容は、生徒数の少子化に視点を当てての高校の学校数の削減に直結させるという選択で計画が実施されようとしているものであると感じたところであります。

この削減計画は、これまで嬉野市内にあります２つの県立高校がそれぞれ特色ある学校として存続してきたところであります。例えば、具体的に申し上げますと、嬉野高校は西部地区で唯一の総合学科が設置されている高校であります。また、塩田工業は物づくりのまちにおいて、工業高校として地場産業に必要な人材育成をしており、両校とも特色ある学校として、地域において大変重要な存在になっております。

したがいまして、私ども地教委といたしましては、両方を統合するのではなくて、現行どおり、２校をそのまま残していただきたいという考えを持っております。

以上、お答えにさせていただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

それでは、再質問をさせていただきたいと思います。

まず、今後の市政運営についてでありますが、１番から４番までは一括して再質問をいたしたいというふうに思います。

まず、市長の答弁の中で、旧町の融和に取り組んだというような答弁があったというふうに思いますが、具体的にどういった融和に向けて取り組まれたのか、お尋ねをしたいというふうに思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

まず、合併当初、それぞれの団体にお願いいたしまして、団体の統合をお願いしたところでございまして、非常に厳しい中でございましたけれども、それぞれの両町の皆さん方が御理解をいただいて、団体の統合、そして活動の統合というところから入っていただいたと、そういうところからお願いをしていったということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

私は、今までの４年間、塩田町内の住民の方といろんな話をしてまいりました。特に、一番不満が強かったのが、やはり４点ほどございました。今までの市政運営についてでありますけど、いわゆる合併時の約束事である本庁方式をいとも簡単に数の力で分庁方式に変えたということ。それから、塩田の給食センターを嬉野の給食センターに統合するというような計画があったこと。それから、社会文化会館の着工のおくれ、それと合併問題であったというふうに私は思っております。

今回の市長選挙で、もし塩田の町民の方の批判票があったというようなことからすれば、やはりこういった点ではなかったろうかというふうに私は思っております。

その中で、特に、やはり塩田庁舎、嬉野庁舎というような分庁方式、これを元に戻すのか、何とかしなければ、２町の融和というものはやはり50年たっても、100年たっても図ることはできないんじゃないかというような感じが私はしております。

そこで、市長の考えをお伺いしたいというふうに思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

それにつきましては、私どもも議会の皆さんと十分協議をしながら決定をさせていただいた議決事項でございますので、私がどうこうということはないと思いますけれども、我々としては、組織のあり方については常に動いていくものだというふうに考えております。

そういう中で、より効率的に、またいわゆる行政としてのサービスを深めていくということについて、努力をしていかなければならないというふうに思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

議決をするのは議会なんですけど、それを提案するのは市長なんですよね。やはりそういった提案の仕方というのが非常にまずい市政運営じゃなかったのかというふうなことを私は言っているんですよ。市長、どうなんですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私も合併協議会の責任者として、２町のお気持ちは十分承知をしておるところでございます。そういう中で、限られた人員の中で、いかにサービスを上げていくのかということにまず重点を置いて、取り組みを進めておるところでございますので、私どもとしては、十分検討をして御提案をさせていただいて、議会で御承認をいただいたというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

住民目線の行政サービスにしても、昨年の12月議会での一般質問でもあったように、子育て支援、これを塩田の業者が少ないからといって、やはり嬉野に持っていくというような発想ではなくて、やはり両町を充実させなければならないというような考え方を持つべきであると。やはり効率性ばかりを求めるんじゃなくて、住民の利便性というのを主体に、市政運営というのはやっていくべきだというふうに思いますが、その点はどうなんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先ほどからお答え申し上げておりますように、いわゆるサービスの向上というのを常に基本に考えておりますので、そういう態度で行っていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

両町を充実させていくという考え方ということで理解をしていいわけですかね。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

両町というふうに分けることではなくて、市民お一人お一人のサービスがより充実するように努力をしておるということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

それとですね、もう１点は、非常に市政運営については大事なことではないかというふうに思いますけど、職員の件なんですが、やはり挨拶、あるいは市民に対する対応の仕方、これは基本中の基本で番外なんですが、市長に仕事の関係で物が言える、そういった雰囲気をやはりつくるべきじゃないかというふうに思うわけです。こうすれば、もっと市民に対していいんじゃないかというような職員一人一人の考え方があるというふうに思うわけです。現在、小さなことまでトップダウンで職員が物を言えない状況じゃないかというふうに私は感じておりますけど、市長はその点、どうなんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

常に私はトップダウンよりもボトムアップということでございますので、今、御発言でございますので、具体的な例を示していただければと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

先ほども申しました子育て支援、こういったこともやはり職員がそういうふうな考え方に立つということ自体がどうかなというような気がしたものですから、やはりトップダウンではないのかなというような気がしているわけですよ。そういうことで、私も今申し上げたということです。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

ちょっとおっしゃる意味がよくわからなかったんですけど、職員の要するにトップダウン

において受ける意味と子育てサービス、私は逆だと思っていますけど、やはり現場を預かる者として、より安全に、それでサービスを受けるということになると、２カ所でやるよりも、人員が少ない中では１カ所にまとまってやったほうがいいというふうなことを現場で検討して、私どものほうに上げてきたというわけでございますので、そこら辺については逆だと思いますけど。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

いずれにしましても、やはり職員の仕事に対する考え方というのを市長に対して物を言える、そういった雰囲気をぜひつくっていただきたい、これが市政運営、やはり職員がやる気を出す、仕事をやりたい雰囲気をつくることが市長の市政運営に非常に大事なことになってくるというふうに思うわけです。そこら辺、市長、どうなんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

今、お尋ねしましたように、具体的にお話しいただければ、お答えいたしますけど、どのようなことでいわゆるトップダウンのために職員の仕事がしにくいという状況にあるのか、御説明をいただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

ただ、個々にというわけじゃございませんけど、そういった感じが私がしているというようなことなんです。ですから、市長の感じとして、どういった感じを持っていらっしゃるのかなというようなことを聞いたというだけのことなんです。

元に戻りますけど、このいわゆる住民サービスというようなことで、住民の利便性というようなことで、やはり分庁方式、これを何とか解消してもらいたいというふうに思いますが、再度考えを伺いたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる分庁方式ということにつきましては、それぞれの施設の中で全ての職員を収容し

て、そしてお互いに均等に仕事ができるということを考えて、私どもとしては取り組みをしているところでございますので、そこらについてはぜひ御理解をいただきたいと思います。

また、以前、それについては議論もありまして、御理解をいただいているというふうに思っております。

これを改正しようとなると、もう１庁方式しかないというふうなことになるわけでございますけど、これについては以前からお話ししておりますように、今現在、１つの庁舎で収容するということは当然できないわけでございますので、しばらく時間はかかるというふうにお話をしておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

この件に関しては、とにかくいわゆる２町の融和に向けたやはり市政運営を今後も心がけていただきたいということだけを申し上げたいというふうに思います。

次に、市町村合併についてでございます。

市長の答弁では、現在のところは嬉野市のまちづくりに邁進をしたいと。だから、現在のところは、合併については考えていないと。できれば、広域連携でやりたいというようなことで理解をしていいわけですかね。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

冒頭でお答え申し上げましたように、いわゆる私どもとしては、鹿島市、太良町は非常に歴史的にも重要な、いわゆる近隣の自治体であるというふうに考えておるところでございまして、以前よりも相当今は濃く交流を重ねておるところでございまして、そういう中で、やはり今まで以上に行政効率も上げていっているというふうに思っておりますので、この関係は非常に大事にしながら、しっかりやっていきたいと思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

この少子・高齢化の中で、人口は減るばかり。それに伴って、税収も減っていく。基礎自治体というのは、以前も申し上げたというふうに思いますけど、やはり一定規模、私は５万人から10万人ぐらいじゃないかというふうに思いますが、そういった規模でもって、その中

で住民サービスができる自治体にすべきだというふうに思いますけど、その点はいかがなんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私も以前から同じ意見でございまして、ある程度の人口規模を持たなければならないということで、以前の話になりますけれども、以前の塩田の杉光町長さんと一緒に話し合いをして、そしていわゆる西部、あの当時は２市10町でございましたけれども、杵藤地区のいわゆる自治体で合併をしようじゃないかということを提案してまいったところでございます。

そういうことも、杵島郡の皆さん方のお考えも少し違っておりましたので、我々としては、いわゆる太良町、鹿島市、私ども、それから武雄、山内まで含んだ形で合併をしようということで協議を続けていただいたということでございます。そういう中で、太良町と鹿島市が合併協議の最終段階で逆の結論を出されましたので、非常に残念に思ったということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

２市４町ですか、これはもう10年前の話なんですよね。やはりいつまでもそういったことを引きずっていては、私はいけないというふうに思うわけです。やはり塩田町というのは、生活圏が鹿島市と武雄市なんですね。その中で、特に地理的、歴史、産業と非常に結びつきの強い鹿島市、太良町との合併を多くの方が望んでおられるというふうに私は思っております。

そこで、やはり市民の考えというのを問う必要があるというふうに思いますが、その点、いかがでございましょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

市民の皆さん方のお気持ちは十分承知をいたしておりますので、先ほど申し上げましたように、私どもとしては、鹿島市、太良町とは以前以上に今濃ゆく交流を深めているところでございます。また、広域の事業も一緒にやっておりますので、今回、また新しい事業に取り組むようにしておりますけれども、そういう点で、以前よりも相当濃ゆくなっているという

ふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

合併については、本当にもう真剣に考える時期に来ているんではないかというふうに思いますので、ぜひそこら辺のことを頭の片隅にでも置いていただきたいというふうに思います。

次に、県立高校の再編について伺いたいと思います。

市長、教育長とも、この県立高校の２校の再編については反対であるというような答弁であったというふうに思います。私もそう思います。やはり２つの高校というのは伝統のある高校であるというふうに思いますし、やはり生徒の数だけでは割り切れないというふうに思うわけです。そしてまた、両町の中心部にあります。やはり両町の活性化にも必要なんですね。ぜひやはり残すべきであるというふうに思います。

しかし、７月には計画案というのが出るというようなことも聞いております。やはりそこで具体的な再編に反対の行動を起こすべきではないかというふうに私は思いますけれども、そこら辺、市長、教育長はどのようにお考えなんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在の状況につきましては、先ほど申し上げたとおりで、私はもう反対ということを既に申し上げておるところでございまして、市民のいろんな方にもそのようなお考えはお伝えをいたしております。

また、県のほうの説明会も、やはりこの前の説明会ではどうしても理解できないというふうな意見が多かったというふうに聞いておりますので、また再度説明会もしていただくというふうに期待をしておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

お答えを申し上げたいと思いますが、私も２校を残すということが最大の目的だというふうに思っておりますので、強く要望をしていきたいと思いますけれども、先日、県の教育委員会のほうから話が来ておりまして、いわゆる２月６日が大雪のために、非常に出足が鈍かったというふうなことでございまして、それで一応４月中にもう一度説明会を実施したいと

いう話を受けておりますので、その周知については教育委員会でも協力をしてまいりますということで言っておりますので、回覧板等で回しながら、４月の中旬をめどぐらいに県のほうからもう一度市民に対しての説明会があるのではないかというふうに思っていますので、そういったことを受けながら、今後、行動等については考えていきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

７月には計画の案というのが県のほうから示されるんですかね。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

予定ではそのようになっているんじゃないかと思いますが、ただ、この嬉野、塩田の部分だけがどちらの高校でというふうな、場所でというのは示してありませんので、いわゆるたたき台ということで出してあるわけでございますから、そういう点では市民の意見を聞くということになろうかと思いますので、私が決めるわけではございませんので、そのころになるんではないだろうかというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

この２校については、ぜひ存続の方向で努力をしていただきたいというふうに思います。

次に行きたいと思います。

下水道事業についてでございます。

もうこの件に関しては、私ももう今回で３回目ですか、一般質問で取り上げてまいりました。なかなか遅々として進まないなというような感じがしております。

そういうことで、やはり昨年の７月やったですか、アンケート調査が実施をされたというようなことでございます。そのアンケートの調査の結果を受けて、どのように捉えられたのか、お伺いしたいというふうに思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

下水道事業につきましては、御承知のように、合併いたしましてすぐ農業集落排水事業に取り組んだところでございまして、当初の予定よりも相当早くいっているというふうに思っております。ただ、問題は残っている地域についても時間をかけることは、余り好ましくないというふうに以前から考えておりましたので、そのようなことで、この前、それぞれの意見をお聞きしたということでございます。やはりどなたもいろんな意見もあられますけれども、ぜひ整備をしてほしいというふうな意見が多かったと思っておりますので、先ほど申し上げましたように、いわゆる１年、２年かけて、できるだけ早く着工できるように計画をつくり上げていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

さっきの答弁の中で、着手するには１年から２年は必要だというようなことでありますが、やはり未整備地区の住民の方々は非常に待ち望んでおられるというふうに思うわけです。そういうことで、26年度でもう全部の計画を終えて、27年度には着工ができるような体制ができないものか、その点いかがなんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

具体的にそこまでまだ検討しておりませんので、できるだけ早くということで、いわゆる担当のほうと協議をしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

それでは、いわゆる審議会の答申が出ておりますけど、この整備手法については、この審議会の答申を尊重するというようなことで理解はしていいわけですかね。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

総合的ないわゆる計画策定の中では、やはり専門家の意見も入ってくると思いますけれども、現在の段階では、せっかく協議をしていただいた形でございますので、ぜひ尊重させて

いただいて、やらせていただければと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

それでは、久間地区の未整備地区については市町村の設置型の合併処理浄化槽で実施をしたいというように理解をしていいわけですかね。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる審議会での御意見はそのようなことでございました。急激にそれ以上のものが出てくるということになると、また話は別でございますけど、現在の段階では、審議会の御意見をもとに検討できればと思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口政人議員。

○10番（山口政人君）

とにかくこの未整備地区につきましては、やはり１日でも、１年でも早くもう実施をしてもらいたいと、工事の着工をしていただきたいということをもう強く要望をしておきたいというふうに思います。

以上をもちまして、私の一般質問はこれで終わりたいというふうに思います。どうもありがとうございました。

○議長（田口好秋君）

これで山口政人議員の一般質問を終わります。

引き続き一般質問の議事を続けます。

９番山下芳郎議員の発言を許します。

○９番（山下芳郎君）

議席番号９番、山下芳郎でございます。きょうは傍聴席の皆さん、たくさん御来庁いただきまして、まことにありがとうございます。

ただいま議長の許可をいただきましたので、通告書に従いまして一般質問をいたします。

市長も我々市議会議員も、今回の厳しい選挙を経て４年間を任され、今回が初議会であります。今議会から５名の新人議員の仲間がふえまして、市民の代弁者として、また、議会活性化に向けてなお一層の大きな活力になると思っております。国も地方自治も大変厳しい状

況に直面をいたしておりますけれども、私も時代の変化におくれないように勉強していきたいと思っています。

今回、私は３点の質問をいたしております。

１点目は、市長の再選後の政策につきまして、２点目は、市営住宅の建設について、３点目は、高校再編成計画につきまして質問をいたします。

まず、１点目についてお聞きします。

谷口市政にとりまして、嬉野町時代の町長選挙に初出馬をされて以来の久しぶりの選挙戦でありました。今回、選挙公約をリーフレットに形に示しながら市民に訴えてこられ、僅差ではありましたけれども、市民の信任を受けられまして、見事当選されました。

そこで、そのリーフレットを開いてみますと、タイトルに、「市民の皆さんと汗を流して育ててきました。嬉野の未来を仕上げます！」と大きく真ん中に書いておられます。

市長は合併以来３期目のこの４年間で、集大成としてこの12年間の総仕上げと受け取っております。この混沌としている真っただ中でのかじ取り役を市民から任せられた市長は、執行権を持っておられる権限と同時にその責任も重いものがあります。我々議員の大きな役割に市長の政策をチェックする義務があり、今議会が新たな実質のスタートであります。この場で確認をさせていただきます。

まず、先に市長に、市政３期目の一番大事な政策の柱となりますビジョン、または理念と申しますが、その分が見えませんので先にお聞きいたします。

再質問は質問席よりいたします。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午前10時56分　休憩

午前10時56分　再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

引き続きお願いします。

○９番（山下芳郎君）

それじゃ、もとに戻りまして、質問の整理をしたいと思います。

通告書には３点上げておりますけれども、冒頭に市政運営につきましてお尋ねをいたします。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩。

午前10時57分　休憩

午前10時57分　再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

○９番（山下芳郎君）

それじゃ、また、すみません、再開いたします。

市長再選後の政策につきまして、４点を掲げております。

市政運営のビジョンにつきまして、また、選挙広報、リーフレットに記載しておられますその政策内容を具体的にお聞きします。もう１点が、それに伴う予算化の方針を問います。４点目が、政策発表会が開催されたことについて意見をお聞きしますことを通告書で示しております。

先に、１点目の施政方針ビジョンについてお聞きします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

山下芳郎議員のお尋ねについてお答えを申し上げます。

いわゆる施政方針のビジョンを示すべきということでございますけれども、私は今回の選挙戦の中で、「より力強く未来へ」ということをビジョンとして訴えてきたところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

ただいまビジョン、理念というものが、表題にあります「より力強く未来へ」ということがビジョンということで答弁をいただきました。この分につきまして、考え方として一番大事な部分であろうかと思いますけれども、市民に対しましてはなかなかその分が当選後も見えない部分がありますので、いろんな方法で市民に知らしめる機会があろうかと思います。もう期間的に大分過ぎてはおりはしますけれども、市報、またはホームページ等々で示していただきたいと思っておるわけであります。

そういった中で、十年一昔と申しておりますけれども、どこの自治体でも同じような傾向でありますけれども、我々嬉野市におきましても、人口減少とともに一年一年経済的な活力が減じておる状態であります。ぜひ今回、再任をなされましたので、市民の先頭に立って、旗を振って引っ張っていただきたいものであります。環境がどんどん変わっています中で、時間がありませんので、スピード感を持って結論を出していただきたいと思っております。

リーフレットに書いておられます政策の内容を見て読んでみますと、まず１点目に、「美しい山・水・風景を守ります」とあります。２点目に、「新幹線を活かした新・感・鮮な街

づくり」ということであります。３点目が、「福祉と健康、日本一！」、その前に副題としまして、「日本一住みやすい街を目指して」ということで掲げておられます。４点目が、「ＩＣＴ教育、世界一の街へ　国際教育ナンバーワン宣言」とあります。５点目が、「６次産業の創造・育成」とあります。６点目が、「国際教育、研究機関の誘致で若者交流大作戦」とあります。７点目が、「ピカッと嬉野！観光大戦略！」とあります。８点目が、「お茶や焼物、農工業産品　世界に通用する新ブランドづくり」という８項目に分けられて示しておられます。

今回の当初予算は、政策が反映されない骨格予算でありましょうから、まず、そのために、この政策を実現するために、概算で結構ですけれども、どのくらいの予算がかかるのか、お示しをいただきたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先ほど申し上げましたように、やはり私の責任としては、この未来の嬉野に向かっての責任を果たしていくということが大事であるというように考えて、それぞれの項目に分けて細かく政策をつくりまして御理解をいただいたところでございまして、御支援いただいた市民の皆さん方に改めてお礼を申し上げるところでございます。それで、今お話されたことにつきましては、当選後すぐに職員に指示をいたしまして、細かく説明できる、いわゆる担当も決定をしていただいておるところでございまして、これから詰めていくというふうに思っております。

そういう中で、やはりいろんな状況はございますけれども、６月の議会には、やはりできるものについてはぜひ予算を上げていきたいというふうに思っておるところでございまして、また、時間がかかるものにつきましては、この４年間で必ず取り組むということを前提に努力をしていきたいと思っておるところでございます。

また、財源等につきましては、これはもう議会の御承認をいただかなければできませんけれども、私どもとしては、できる限り財源も手当てをしながら行っていきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

今、市長から御答弁がありました。次の質問にしていましたけれども、予算を今からということと、財源につきましても、並行しながら検討していきたいと。６月議会には上程でき

るんじゃないかということで思っております。

では、それじゃ、８項目の中から、その政策実現に向けてどうして進めていかれるのか、確認をいたします。

まず、１項目に上げておられます「美しい山・水・風景を守ります」という項目について、その考えをお示しいただきたいと思っています。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

既に予算化もしているものもございますけれども、この嬉野は、まず、旧塩田町、嬉野町のときから山を大切に守ってきた自治体でございますので、それをしっかりやっていきたいと思っておりますし、特に今まで手がつきにくかった民有林の整備等についても前向きに努力をしていきたいということでございます。

また、水源等も持っておりますので、水源の確保ということもしっかりやってまいりたいと思いますし、また、私どもとしては、やはり先般お願いいたしました景観条例等を厳守するように、また、細かい動きをしていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

ここの中にあります補足説明でしょうか、書いておられます、「近隣市町と連携し環境保全に努めます。」と書いておられますけれども、この内容を説明いただきたいと思っています。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私は就任以来、近隣の市町と協働をしながら、特に鹿島市さん、太良町さんと一緒になって多良岳材の生産ということに努力をしてまいりましたし、また、代表も務めてまいりました。また、今後、森林組合等も協議をしながら、太良町さん、鹿島市さんと一緒に手をつなぎながらしっかりやってまいりたいというふうに思っておるところでございます。

また、有害鳥獣等の対策等につきましては、これはもう既に取り組んでおりますけれども、また枠を広げて、長崎県、または杵島郡の皆さん方とも連携しながらやってまいりたいというふうに考えておるところでございます。

そういうことで、山づくりについては、一嬉野市だけではなくて、近隣の市町とも一緒になってやっていかなければならないというふうに思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

佐賀県も当市も、こういった山に恵まれた、自然環境が非常にすばらしいという形態でありますけれども、その中で、個人的に小さなことですけれども、我々集落でもそのことが非常に大きな問題になりまして、先代の人たちが一生懸命食事を含めて管理しておられた方が、今の、私どもも含めてですけれども、若い世代が入りますと、なかなか山に入ったことがない、そういったのがありまして、現実的には非常に厳しいものがありますので、ぜひ近隣市町と連携しながら、もう１つその上のほうの国への働きかけまで含めて早急に具体的にお願いしたいと思っております。

それじゃ、次の質問に入りたいと思っています。

次の２点目ですけれども、「新幹線を活かした新・感・鮮な街づくり」という項目がありますが、それについても質問いたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

新幹線の計画につきましては、現在順調に行われているところでございまして、まず、もう具体的には、駅前整備の、いわゆる具体的な姿を見せてこなくてはならないというふうに考えておるところでございまして、現在、地権者の方々と既に協議を始めておるところでございまして、スピードアップをしていきたいというふうに思っております。

もう１つは、ＪＲと鉄道・運輸機構とも協議をいたしまして、駅の姿を、やはり私どもの意見をできるだけ取り入れていただくような協議を具体的に進めてまいりたいと思います。

３点目は、やはり近隣の自治体から支持されてこその新幹線嬉野温泉駅だというふうに思っておりますので、鹿島、太良、それから東彼３町の皆さん方の御理解いただけるような、そういう駅前整備をしてまいりたいと思っておるところでございます。最終的には私どもの観光地もございますし、また、塩田の伝建地区もございます。そういう中で、市内全域にいわゆる新幹線の整備効果が出てくるように努力をしてまいりたいということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

非常に今から、例えば、４年後に医療センターさんが移転をされると。それで、さらにその４年後、もしくは５年後になるでしょうか、新幹線駅の開業ということでありまして、本当に政治的な大きな課題があるわけであります。新しいまちの展開ということでありますので、我々議員も一緒になって、一体となって推進していく必要があると感じております。

その中でですけれども、これについても記載しておられます近隣市町については、今、市長が御答弁なられましたけれども、私が思います近隣の中でも、特に長崎県さん、佐世保市を含めて北松、もしくは長崎市含めてですけれども、こちらについての連携というのは、そういった協議会的なことをつくる必要があるのかどうなのかわかりませんけど、どういった形で進めていかれる御用意があるのか、お尋ねします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いろんな駅があるわけでございますけど、私どもの駅は本当に広域に使っていただく可能性があるわけでございます。そういうこともございまして、長崎県の長崎、それから諫早、大村については既に連携をしておるところでございまして、それから、もう１つの連携のほうでは、平戸市さんも含めて連携をしております。そういうことでございますので、今、議員御発言のような、長崎県側の自治体とも十分連携ができるような新幹線の駅にしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

長崎県の中で、私、特に長崎の港ですね、今から国際的に開かれた港で今既にありますけれども、特に東アジアに向けたクルーズ船の一つの大きな港でありますので、そういった点では、新幹線、国内におきましては、西の一番端と言いながらも、ある面では玄関口としての機能も十分踏まえておりますので、そういった点では一番近い温泉、それも、すばらしい温泉を抱えている当市でありますので、積極的にそういった連携をつなげていただきたいと思っております。そういったことについての市長の考えはいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

議員御発言のことにつきましては、新幹線のいわゆる整備促進運動の中でも、既に国のほ

うにも何回でも申し述べてきたところでございまして、具体的には長崎から上海までを一つの海の新幹線と見て、それによって、いわゆる長崎に来ていただいたお客様が、私どもの長崎ルートを使って、そして、関西、関東に行っていただくと。そういう中の重要な新幹線であるということで要望活動をしてきたわけでございますので、今、御発言については、もう開通後もぜひそのような形でお客様が御利用いただくように、そういう中で私どもがお立ち寄りいただくような嬉野温泉駅をつくっていかなきゃならないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

もう１つは、駅そのものですけれども、非常に特色のある駅にするためにいろんな方策は御検討いただいていると思いますけれども、嬉野温泉にふさわしく、前回一般質問でも確認をさせていただきましたけれども、駅構内、もしくは周辺に温泉を引っ張ってくるということで御答弁をいただきましたけれども、今も変わらないでしょうか、確認をします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

手法は別にいたしましても、せっかくの温泉地でございますので、この温泉駅周辺にそのようなものが用意できたらと、温泉駅にそのようなものが用意できたらというふうに思っておりますし、また、温泉街との連携もこれからしっかり協議しなくちゃならないと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

それじゃ、次の項目に入ります。

次が、「福祉と健康、日本一！」、副題といたしまして「日本一住みやすい街を目指して」ということで記載をされております。この分について内容の確認をいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

私どもとしては、嬉野市全体で地域の方々を支えるということを施策の中心として今まで

もやってきましたので、それについては曲げることなく貫いてまいりたいと思っております。

そういう中で、やはり生涯健康で暮らせる嬉野市を目指したいということでございまして、今、医師会の先生方とも十分連携はとれておりますけれども、それ以上にしっかりやってまいりたいというふうに思っておるところでございます。

また、福祉関係につきましても、この８年間で施設的には相当整備をしてまいりましたので、これからはやはりこのマンパワーを育成するということが大事であろうと思いますので、そこらについては、やはり若い人たちがそういうような福祉のいわゆる業界に意欲を持っていただくような、そういう施策、また、援助もしていかなければならないというふうに思っております。

最終的には、常に申しておりますけれども、お一人お一人市民の方が、やはり生涯を通じて、いわゆるカルテを持てるようなことをやれれば、日本で初めての取り組みじゃないかなというふうに思っております。

もう１つは、障がい者をお持ちの御家庭の方、また、障がいをお持ちの方々が、今もですけれども、次の世代も安心して嬉野で暮らしていただけるような、そういうふうな施策をぜひ打ち立てていきたいというふうに思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

今お住まいの皆さんが本当に健康で長生きというんでしょうか、そういった一つの大きな施策を持っておられて、それも今も実行をなされておられます。十分理解をします。

その中でですけれども、隣の武雄市さんが、日本一住みたい田舎のまちということで全国のランキングで２番になられて、非常にそういった点で問い合わせが多いということを聞いております。そういった点で、よその、嬉野市以外から居住、定住につながるような施策、要するに住みたいまちということについての分は、これと並行しながら考えることは思っておられますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

もちろん原則としては、現在住んでおられる方が第一に喜んでいただくというのが大事でございますけれども、やはり市内の方々が嬉野に来ていただくということも大事であるということで、以前から定住促進の政策を打たせていただいておるところでございますので、そういうところは十分取り組みをしてまいりたいというふうに思っております。

また、新幹線関係で少し扱っておりますけれども、やっぱり通勤とか居住とか、そういうものについての、いわゆる特別な制度をぜひつくり上げていきたいと思っておるところでございまして、議員御発言のような趣旨も踏まえて努力をしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

特に若い世代に向けての施策は、考えはお持ちでしょうけれども、具体的な形で示すことも大事じゃなかろうかとなと思っております。特に積極的な企業誘致、または産業の活性化などありますけれども、なかなかこれも遅々として進んでいないというのもあります。非常に今からの人口減少、特に少子化が激しく進んでいます中で、今回この中の枠に入れておらなかったのはちょっと心残りであります。

次の項目に入ります。

若者の「ＩＣＴ教育、世界一の街へ　国際教育ナンバーワン宣言」とありますが、この項目についてお尋ねをいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

今回につきましては、やはり次の世代を担う若い人たちを育てるという意味でしっかり取り組んでまいりたいというふうに思っておるところでございます。

私は、教育のあり方ということにつきましては、以前も教育委員会とも話をして、生きる力の教科書ということで、たくましい子どもを育てていくということからスタートをしたわけでございますけど、本件につきましては、今まで以上にやはり学力、学ぶ力というものをつけていきたいというふうに思っておるところでございます。そういう点で、やはり今一番必要なのは、ＩＣＴの機器等についての理解をすると、また、ＩＣＴ教育について、そのものに理解をするということが大事でありますので、教育委員会と協議をしながら、しっかり努力をしてまいりたいと思っております。私どもとしては、施設の整備等についても、できる限り予算組みをさせていただきたいというふうに思っております。

もう１つは、やはり国際化という中で、やはり私としては、まずは英語教育だということで、これは国全体の動きもありますので、まず、そういうところから力をつけていって、そして、嬉野の子どもたちが地元にいながらでも、いろんな国際的な活動ができるようにしっかり支えていきたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

それでは、今、御答弁いただきました分の中での副題にありますＩＣＴ教育世界一ということで持っていきたいということですかね。これは世界一というのは、例えば、細かい点ですけれども、そういった機材の導入が世界一なのか、もしくはその結果、教育水準が上がることが世界一なのか、ちょっと漠然とした質問ですけれども、その世界一というのは裏づけは何になるかというのをお答えいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

学力全体につきましては、以前から努力をしていただいて、今相当高いところに来ておりますので、このＩＣＴに対する理解の度合いというものを、非常にまだ低いところにありますので、ぜひ高めていきたいということでそこに打ち出しておるところでございまして、日本一はもちろんですけど、世界で通用するような子どもたちになっていただきたいということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

これに宣誓と申しましょうか、コミットするということは非常に大事であります。と同時にそれをいかに実現していくかというのも大事でありますので、この４年間の中で市長の思いを具体的に進めていただきたいと思っております。

この件は教育長には質問出していませんけれども、市長として、教育長にも内容の説明、もしくは御理解をいただいておるんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

以前からそのことについては話をさせていただいておりまして、とにかく教育に関しては、予算はできる限りつけていくからということで教育長と話をしております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

じゃ、次の項目に入ります。

「６次産業の創造・育成」とあります。これについて説明をお願いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

具体的に言いますと、いわゆる私どもの農産物ですね、そういうものを売れる商品に仕上げていくということで考えておるところでございまして、それについては、今現在、国が取り上げているような６次産業という考え方でやっていきたいというふうに思っております。もう既に数品目等については国内でも打って出れるような商品に仕上がってきておりますけれども、まだまだ嬉野にはそういうふうな宝がいっぱいありますので、やはり６次産業化をしっかり進めてきて、そして、それでいろんな他地区の農産物等と太刀打ちできるようにしっかりやっていきたいということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

今の実績としては、私なりに思うのは、あれもそうだなと思うのは、例えば地元の大豆を使った温泉湯豆腐なんかはまさにそういった分で、加工ということを経ながら６次産業の一つの形じゃないかなと思うわけですけれども、本当に６次産業と言われて久しいんですけれども、なかなかそれがまだまだということでありますので、こういった形で大きく柱を示しながら進められるというのは大いに結構かと思っております。

その中で、嬉野茶、お茶についてですけれども、５年連続の農林水産大臣賞、また産地賞を受賞しておりますけれども、御存じのように、非常に生産価格が今厳しい状況の中で、後継者もなかなか育ちにくいという状況があります。

そういった中で、さきの一般質問の中で２回ほど御提案を申し上げたんですけれども、生産者とそれに伴います商いをなさる茶商の方、また農協、嬉野市には茶業振興課というすばらしい課がありますので、行政も一緒になった嬉野茶の推進協議会的なものをつくる必要があるんじゃないかということで提案いたしました。そこでＰＲしながら、また、営業活動をしながらと、また、そういった６次産業にもつながるような形の提案いたしましたけれども、その後の御検討はいかがだったでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

幸いにいたしまして、今、国の予算等もいただきながら、産学官という連携ができつつありまして、今２つの案件で、今、私どもが国の予算をいただきながら進めておるところでございまして、そういう中には、生産者、消費者、そしてまた流通関係の方も入っていただいておりまして、今それがスタートし始めましたので、議員御発言のようなことも、そういう活動の中でしっかりできていくものというふうに思っております。最終的には、やはり相当の予算になりますので、そこら辺については成果が上がるように、私どもも支援をしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

今支援と申されましたけれども、市が積極的にそういった関係各位とつながりを持った一つの形をつくりたいという形で引っ張っていかれる用意があるのか、確認をします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

既に２つとも私どもの茶業振興課が１つは事務局を持っておりますし、１つはまだ佐賀大学のほうにもございますけれども、もう既に動かしておりますので、その成果をぜひ上げていくように努力をしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

じゃ、次の項目に入ります。

「若者交流大作戦」、「国際教育、研究期間の誘致で」ということでの副題が続いておりますけれども、この分の確認をします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

将来の嬉野ということを考えたときには、やはり今私どもが現在住まいしている、もちろ

ん市民の方へのサービスということは非常に重要なことでございますけれども、将来を支える、やはり若い人への投資ということがこれからの課題になってくるというふうに思っておるところでございまして、私どもとしては、現在も努力をしておりますけれども、やはりそれぞれの産業の後継者というものにもっと力強く支援をしてまいりたいというふうに思っておるところでございまして、まずは後継者の交流を行っていきたいと思います。

そして、もう１つは、市外の皆さん方との交流をサポートしていきたいと思いますし、最終的には、やはり若い方々が国際的にも交流を進めていくということについても、ぜひ御支援をしていきたいということで計画をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

この分は非常に大きな大事なことでありますけれども、幅広いので具体的にはどうということじゃございませんけれども、例えば国際交流の中でも姉妹都市提携とか、学校あたりとの国際的な提携、交流というのも提案をいたしたわけですけれども、その後の御検討なりは、進捗度合いを確認したいと思っていますが。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる子どもたちの国際交流ということにつきましては、現在、嬉野高校の皆さんと、それから、中国の瀋陽の高校と今交流をしようということで、先般、先生方が瀋陽のほうに行っていただいたわけでございますので、いわゆる具体的に進んできたということでございます。

また、国際交流につきましては、先般から海外のまちと提携を結びたいということで話を進めておりまして、今、先方のほうからも非常にいい返事が来ておるところでございますので、具体的になりますと、また議会のほうにもお話をさせていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

じゃ、次の事項に入ります。

「ピカッと嬉野！観光大戦略！」、この分について質問いたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在、嬉野の観光の状況ということにつきましては、幸いにして観光客は増加傾向でございまして、今回のあったかまつりについても、例年以上のお客様に来ていただいているというふうに思っております。ただ、やはり宿泊のお客様が伸びつつありますけれども、以前までは戻っていないということが課題ではないかなというふうに思っておりますので、そこらについてこれからしっかりやってまいりたいと思いますけれども、まずは嬉野に来ていただくお客様をふやしていくということで、いろんな施策を展開してまいりたいと思っております。

そういう中では、この前たくさんの方に来ていただきました、いわゆるオルレもそうでございますし、また、それぞれの観光協会の職員の動きと一緒に私どもも今動いておりますので、そういう点で、いわゆる嬉野温泉のイメージを高めていただくということでの努力を継続していきたいというふうに思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

言葉遊びじゃありませんけれども、この項目は「観光大戦略」となっております。その前の事項が「若者交流大作戦」となっておりますけれども、「大作戦」、「大戦略」、違うんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる、観光について、やはり今までも力を入れてきましたけれども、本格的にやはり予算も突っ込んでいきたいというふうな意味を込めて書いておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

承知いたしました。

それじゃ、この中の文面が書いてありますので、そのまま読ませていただきます。「観光嬉野の良さを磨き上げ、嬉野・塩田の魅力を合体し、国内から国際観光まで、光る個性的な

観光プランを推進します。体験型観光、バリアフリー観光など多彩なメニューで魅力アップします。」ということでありますけれども、この中で、バリアフリー観光ということが名前が上がっておりますけれども、この分につきましてはいろんな商品があろうかと思いますけれども、今からの時代の観光の大きな柱になる分もあるんじゃなかろうかなと私なりに理解をするわけです。ただ、行政がこれをそのまま商品化しました中で、いろんな部署がありますけれども、基本的には、この分は福祉の分と観光の分が一体になっているということでありますので、今の行政の中で、これはどういった形でおろしてしていかれるのか、確認をしたいと思っています。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

議員御発言のように、いわゆるユニバーサルデザイン、バリアフリーというのは多岐にわたるものでございますので、現在は企画部のほうで主に担当をしております。企画のほうで受けて、また、それぞれの部で必要な面があれば一緒にやっているということでございますけれども、それぞれ福祉の面から観光の面まで多岐にわたりますので、今のところ企画のほうが中心にやっているということでございます。将来的には、多分、嬉野温泉の柱になってくると思いますので、独立した係に持っていけたらというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

市長の御答弁を受けて確認ですけれども、今こういった、この分につきましては、企画部で精査をしながら、実務的になりましたら、将来的にそこら辺を合うような形で組織づくりを考えていきたいということで思っておられるということでよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在も相当、いわゆるバリアフリーを使った観光ということについてはいろいろ進めておりますので、既にそれにずっと上乗せをしていくという形になりますので、相当充実をしてくるというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

これは課も違いますけれども、部も、観光と福祉はそれぞれ２つの部門がありまして、一体となった形の具体的に落としていくとなると、重ならない部分があろうかと思います。これは先を見据えながらということで私なりに理解をするわけであります。

その中で、先般も提案をいたしましたけれども、応用の分ですけれども、今センターがありますけど、その分を観光協会に委嘱することによって、企画から提案から、また販売、また利用者からの利用料金もいただけるということで提案をいたしましたけれども、それは先般の一般質問でしたんですけれども、その後の御検討はいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私どもも以前からそのようなことは御提案を申し上げておったところでございまして、観光協会さんにしても、いわゆる重要性はもう十分承知をしておられますし、また、バリアフリーツアーセンターの方についても、当然、観光面も大きな、いわゆる一翼を担っておられるわけでございまして、お互い理解をしておられるというふうに思います。

ただ、そういう中で、予算的な課題があられましてなかなか一体化されるということは難しいというふうなことで、いろんな制度の予算を獲得して活動をしてこられたということでございますので、私どもとしても、今までどおり御協力はもう十分していきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

承知いたしました。

それじゃ、次の項目に入ります。

「お茶や焼物、農工業産品　世界に通用する新ブランドづくり」について確認いたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆるお茶、それから、私どもの焼き物、またいろんな、米、お酒とかあるわけでございますけれども、その柱となるものにつきましては、ぜひ輸出に対応できるような嬉野の物産として育てていきたいということでそこに書き上げさせていただいておるところでござい

ます。今でも一部そのようなことで取り組んでおられる方もおられますけれども、我々としては、将来の嬉野を考えたときには、やはり国内の市場だけではなくて、海外にも打って出るべきだということを以前からお話をしているところでございますので、それをぜひ具体的にまた広げていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

まさに私もそう思っております。いろんな国際的な環境がどんどん変わってまいります中で、嬉野市におきましては、いろんな面でこのものづくりがすばらしい、いいものを持っております。ただ、いかんせんやっぱり足らないのは、そういったＰＲ、販売が生産者、特に厳しいものがありますので、こういった形で市が打ち出すことによって非常に心強いんじゃなかろうかなと思っております。ぜひこの旗振り役になっていただきたいと思っています。

そういった中で、先ほどの６次産業ともつながっていくんでしょうけれども、隣と比較したらちょっと非常に私も歯がゆい思いはありますけれども、隣の武雄市におかれましては、こういったことを行政がまとめて、Ｆ＆Ｂ良品と申しましょうか、いろんな発信の仕方はあろうかと思いますけど、まずそういったことをまとめて、そして、一緒になってＰＲすると、また、販売をするということをとっておられます。要するに行政が、そういったＰＲはいいとしても、販売ということになりますと、これは市長の考えを確認せにゃいけませんけれども、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる主体的な動きをどこがするのかということになりますと、それはもうそれぞれの商品をお持ちの方が主体的に動かれるわけでございますけれども、私どもとしては今までどおり、もう全面的に支えていくという方向には変わりはないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

はい、承知いたしました。サポートで十分結構ですので、ぜひ後押しをしながら、生産者が動きやすいように、生産者が元気になるような形でしていただきたいと思っております。

一応、８項目をそれぞれ羅列しながら市長の考えを確認したわけであります。

嬉野市の人口が、今回１月の市報を見てみますと、２万8,000人台を切って２万7,000人台になったということが人口動態に載っておりました。非常に経済とかいろんな活力というのは、まず人口に比例するというところがありますので、ぜひそういったところを、減少になってくるというのはある程度は理解をしますけれども、少しでもそれをとどめる、もしくはいろんな面で活力を促していくということは、我々議員もそうでしょうけれども、やっぱり市長の考えに負うところが非常に大きいと思いますので、ぜひお願いしたいと思っております。ということでお願いしたいと思っております。

次の質問の中でですけれども、１項目めの４点に上げていました、政策発表会というのが選挙期間中にあったわけですけれども、この分につきましては、２人の候補者、市長はもう既に市長に信任を受けられたんですけれども、当時は候補者としてあられたわけですけれども、初めてこういったことが開催されました。その分の主観なり感想をお願いしたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

政策発表会につきましては、市長選の公開討論会を実現する市民の会というところが主催されたわけでございまして、私も参加をいたしましたけれども、私自身の御意見を申し上げろということでございますので、その参加した感想としては非常に違和感を覚えたということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

市長としては当事者であられて違和感を感じたということでありますけれども、私も参加をさせていただいて２階席から拝聴したんですけれども、まず、内容は別にして、非常に大きな会場でほぼいっぱいになるような形の、非常に市民の関心があったということがあろうかと思います。そういった中で、いろんなお考えでしょうけれども、本当にフリーに気軽にお越しになられたというのが、まず感じております。そして、主催者が既存の団体ではなく若者が個々に広げながらしたということについては、今からの若者がよく言われますのは、選挙離れとか物事に関心がないということが一般的に言われていますけれども、そういった点で数名がまとまってしたことについては自分なりに評価をしたいと思っています。

市長は、先ほど言われましたとおりでありますので、それ以上は求めませんけれども、そういった感じを持っておるわけであります。

それじゃ、続きまして、大きな２問目に入ります。

市営住宅の建設について質問をするわけであります。

現状の市営住宅の状況につきましては、さきに資料をいただきましたので確認をいたしますと、７カ所市営住宅がありまして103戸の戸数がありまして、今現在102戸が入居されておられるということであります。問題は、そのうちの89戸が、いわゆる86％になりますけれども、著しい老朽化、または老朽化ということであります。建設年数が、昭和29年、または31年、44年という木造の平家が多くありまして、その分が今の状況であると思っております。

今の状況の中で、市営住宅として市民に対応できているのかどうなのか、まずは先に確認をいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在ございます市営住宅につきましては、全て入居中でございますので、今のところ、市民の皆さん方に御利用をいただいている、そして、また、いわゆる私どもの住宅政策として評価をいただいているというふうに思っております。

ただ、下宿ふれあい住宅以外が非常に老朽化ということでございますので、これは長寿化のいわゆる補助金等を活用して、できる限り整備も進めておるところでございます。ただ十分ではございませんので、御検討をいただければ、やはり整備点検ということを継続してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

じゃ、担当部署のほうにお尋ねをいたしますけれども、今現在の中で、入居者、もしくは入居希望者のほうで既にいっぱいということですけれども、満足度なり要望なりあっているのか、お尋ねをいたします。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（中島憲郎君）

お答えいたします。

入居者、または入居希望者の満足度ということでお尋ねでございますが、現在のところ、そういうふうな調査等は行っておりませんけれども、苦情等があった場合には、即職員が出向きまして対応はさせていただいておりますので、これからもそういうふうな方向でやっていきたいというようなことで考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

建物がそういった経緯で、時代的にはそういった経緯であるということは理解はしますけれども、今本当に一番近いところでは下宿のふれあい住宅ですか、その分だけは新しいのでそういったことはないかと思いますけれども、それ以外は本当に老朽化して、苦情とか要望とかは、それは入居料というんですか、家賃が安いので、それでいいということは言いませんけれども、やっぱり今は安いからこれでいいだろうということは、今は本当に住環境の中では言えないわけですので、そういった点では、もう補修で対応できない状態だと私なりに認識をするわけです。そういった中で、今からの福祉の面も含めてですけれども、市営住宅の一つの役割として建設することを提案いたしますけれども、市長の考えをお願いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

いわゆる公営の住宅をということだろうと思いますけれども、現在私どもも、いわゆる公営住宅の建設につきましては進めてまいったところでございますけれども、現在の状況等を見ておりまして、民間の住宅との兼ね合いとか、そういうものを考えておりますと、もう少し詳細に調査をしながら取り組まないと、先ほど議員がおっしゃったように、公営住宅はできても空き部屋ができたということでは申しわけないわけでございますので、そこらについてはもうしばらく、将来の予測とか、そういうものを調査する必要があるというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

たしかにせっかくつくっても入居者がいないというのはもう本当に維持管理もできないわけですけれども、ただ、今の現状、状況の中で、ほぼ満室の状態でありながらも、内容が非常にもう経年劣化と申しましょうか、非常に厳しい状況であるのも事実なわけですね。これを補修で対応できるのかというのも、安いからということとは別にして、住民の満足度、また、福祉の向上という意味ではもうぎりぎりの状態じゃなかろうかなと思うわけです。そういった点ではこういったことを、特に定住促進も含めてですけれども、柱になされておられますけれども、住環境の整備を、これは民間に圧迫をするかということは別にして、やっぱ

り市営住宅としての役割もあろうと思っております。そういった中で、一つのアパート形式と申しましょうか、集合住宅をつくることによって管理もしやすいし、入居者も住みやすいということがあろうかと思いますので、市長は先ほど答弁なさいましたので、状況を見ながらということで、今のところ私なりにお受けをしておきます。

あと、嬉野市のホームページを開いても市営住宅のことは記載がないわけですけれども、これについては先に、これは所管でいいのかな、ちょっと確認をします。なぜホームページに載せていないのか。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（中島憲郎君）

お答えいたします。

ホームページ等には、空き家が出た場合には広報等でお知らせするということでホームページに掲載をしておりますので、年間を通しての掲載はしておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

多分今いっぱいだからということで載せていないということで言われたと思いますけれども、ただ紹介なりこういったことをしながら、一部の方も多分にいっぱいだということを御存じない方が問い合わせもあろうかと思うんですね。もちろん、窓口に来られて対応するのも結構でしょうけれども、こういった一つのホームページとか御案内する機関もありますので、そこで、満室なりということを言いながら示すことも大事じゃなかろうかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（中島憲郎君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように、周知する方向で検討をしたいと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

あと、今皆さん御存じのように、所管担当としましたら、建設・新幹線課の課長が御答弁をいただきました。利用される市民から見たときに、やっぱり窓口に行って、もしくはホー

ムページはもちろんいいんでしょうけれども、１階の受付に行かれて、市民課でしょうか、行かれて尋ねられるケースが多いんじゃなかろうかと思うんですが、そこに行かれて、この分は担当ここですよということで、建設・新幹線課、１棟、２棟ありますけど、２棟の２階に行かれるんでしょうか、どうなんですか。それとも、窓口で対応されるのか。所管が窓口に来て対応されるのか、確認します。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（中島憲郎君）

お答えいたします。

普通だったら窓口のほうにお客さんお見えでございますので、窓口のほうからすぐうちの担当のほうへ御連絡をいただいておりますので、私どものほうから出向いて御説明、もしくは手続であれば、建設・新幹線課のほうにおいでいただき手続をしていただくというふうなことで対応しております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

非常に不合理と申しましょうか、はっきりいって市民目線じゃないと思っておるわけですね。そういった点では、確かに、補修、建設は今の所管のところでしょうけれども、やっぱり市民目線から見たときには、やっぱり窓口業務、市民課で対応すべき事項じゃなかろうか、もしくは福祉課じゃなかろうかなと思うんですが、市長、そこら辺の考えいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

ほかの事業もそうでございますけれども、いわゆる窓口に来て窓口でお話をしたがいいとなりますと、すぐ職員がおりていって話をしておりますので、そこらについては十分連携がとれているというふうに思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

もちろん連携はとれておるんでしょうけれども、二次的になるよりかは、やっぱり一般的に、例えば市の組織図があってどういった業務がありますよと提示するときに、ロビーのと

ころにもそれぞれ担当がありますように、市営住宅、それは建設・新幹線課ですというよりも、実務的にはそうでしょうけれども、市民の目線から見たときには、福祉課、もしくは市民課で最初から提示すべきじゃなかろうかなということをちょっと確認したかったんですが、そこについてはいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

議員の御発言の趣旨としては、いわゆる市営住宅に入る方が福祉の対象じゃないかということでございますかね。（「福祉課、もしくは市民課ということ」と呼ぶ者あり）いや、私どもとしては、市営住宅に入られる方については、私どもの条件に該当される方については、一応応募をしていただいて、そこで決定するというふうにしておりますので、特に問題は起きていないと思いますけれども。それで、私どもとしては、建設・新幹線課にありますのは、やはり住宅の受付はもちろんですけど、後で補修とか、そういうものが入ってきますので、一貫してやらせていただいたほうが一番いいのではないかなということで今やっておるということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

ちょっと市長の答弁と私がちょっとすれ違うんですけれども、やっぱり市民目線で見たときに、どこにいくかということですよね、私が言いたいのは。それで、１つの組織の中で、市民課、もしくは福祉課でされたほうがよりわかるんじゃないかと。そりゃ、実務的には建設課のほうに流す分もあるんでしょうけれども、窓口業務としてそれを受けますよと、市営住宅についてはここですよということを出すということが、今の建設・新幹線課じゃないんじゃなかろうかなということを確認したわけです。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆるお客様が来られてわかりにくいという御意見でございましたら、１階のロビーに、例えば、市営住宅のこともここで受け付けますからというふうなことを表示するということはできると思います。ただ、建設・新幹線課の職員全体を下におろすということはなかなかスペース的に難しいものですから、今２階でやっているということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

今、建設・新幹線課を１階におろせということじゃありませんので、今のままで十分結構です。あくまで窓口業務として、お客様の市営住宅に対して問い合わせを所管としてするのは、ちょっと重なりますけれども、何回もですけれども、福祉課もしくは市民課か。要するに、窓口業務がすべき事項じゃないかと。それを引き継ぐというのはいろんなことはありはしますけれども、建設・新幹線課に行く場合もあるかわかりませんけれども、市民からの窓口の対応を市営住宅に対してどこがするかということの問い合わせでした。一応結構です。そういったことでありますので、一応私なりに意見を申し上げました。

それじゃ、一般質問の最後の質問であります。

先ほど山口政人議員も質問をされて、それぞれ答弁をいただきましたのでおおむね理解をいたしております。しかし、一部重なる点もあろうかと思いますけれども、御容赦をいただきながら質問いたします。

高等学校再編整備計画についてであります。

先ほど教育長も言われましたけれども、先月の２月６日に嬉野公会堂で、佐賀県が主催いたします県立高校の再編整備計画がありまして、市民に向けまして説明会がありました。私も参加をいたしましたけれども、その前にいろいろ経緯があったんでしょうけれども、一応参加をいたしました。大体大きな会場で30名ぐらいやったでしょうかね。本当に少ない人数でありました。佐賀県が言われるように雪があったからということもありはしますけれども、それはほとんど関係なしに、本当に市民が知らないままに開催されております。

その中で、参加された方からは、いろんな多くの貴重な意見が上がりました。なるほどなというのがたくさん上がりまして、全て記載はしておりませんけれども、特に若いお父さん、お母さんあたりから、保護者として子どもさんを持つ身で真剣に意見を述べられました。教育長、また副市長も出席、またそのほかの幹部の方も出席されておられましたけれども、まず、教育長、先ほど答弁をなさいましたけれども、再度当日の概況なり感想をお聞きしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

高校再編についての状況なり感想なりということかと思いますので申し上げたいと思いますが、先ほど山下議員も自分も参加したということでおっしゃっていただいておりますので、詳しくは必要ないのではないかと思いますけれども、いずれにしましても、生徒数の減少に

伴いまして、各高校の学級数が減少するというようなものでありまして、それの状況に応じた形で学校そのものの再編をしていくという県の教育委員会のたたき台として公表された計画であったというふうに思っております。

２月25日の新聞記事でございますけれども、この記事ですね。36校を29校にするというふうなことで出てきておりますので、嬉野市にかかわるような部分においては、鹿島、藤津の中では、鹿島高校と鹿島実業が統合して１学年280人の７学級ということで鹿島高校にすることが予定をされているという状況であります。塩田工業と嬉野高校は、統合後は１学年200人の５学級、そして、現在の県内の全体の予定の中でということでございますけれども、ただ、この件だけがどちらでするということは決められていないということですね。したがって、ほかの３校については決めてあるけれども、嬉野市においては決めていないというのが現状ではないかというふうに思っております。

それから、感想等についてでございますけれども、説明のときにいただいた冊子の内容を見ますと理解できないことはないわけでございますけれども、説明等を聞いている感じでは同意はできないということを感じました。市民の皆様方が雪の関係もあったんでしょう。周知が、やはり不十分であったというふうに私も感じておりますので、そういう点では、当日、中島副市長も出席をしておりましたので、中島副市長のほうからも、再度説明会を実施すると、してはどうかという提案もなされておりましたが、県のほうは回答なしという状況でありました。いずれにしても、もう少し多くの市民を集めた説明会が必要ではないかという感想を持っているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

今、教育長が御答弁いただきましたように、もちろん内容もそうでしょうけれども、本当に期間が、告知から当日までの期間が短い中で、それで、私も質問を３点ほどさせていただいた中で、雪があったのでという答弁で、県のほうからそういったことでありました。非常に、これは在校生、もしくは今からのここに通われる子ども、もちろん保護者もそうでしょうけれども、やっぱり地域産業にとっても非常に大きな問題であるわけですね。そういった中で、主催者である佐賀県がしっかりと事前に市民に向けての案内告知ができていなかったということを当日会場でもしっかりまず申し上げたわけであります。もちろん人口減少に伴うということも、今、教育長もおっしゃったんですけれども、私なりにそれは理解はするわけです。しかし、順番として、特に今からの宝である子どもたちの教育の場をある面では減少させるということを、ひがみじゃありませんけれども、前提みたいな形で説明をしながら、数字をもとにしながら言われることについて、果たしてそうかなと。もっともっと今の２つ

ある学校を生かしながらすることも検討する余地があるんじゃなかろうかなと思いますし、それを、結論も日にちも決まっているということも聞いております。４月にもう一回開催をするということで県から提示があったにしても、本当に検討、議論の時間が果たしてあるのかなと。もちろん４月にするのは精いっぱい満席になるくらい来ていただいて意見を交わしていただきたいんですけれども、非常に短い時間の中で、ちょっと言い方は悪いけれども、本当に役目済ましみたいな説明会じゃなかったろうかなと思うわけであります。

私は嬉野高等学校、当時の嬉野商業高校のＯＢでありまして、教育長もそうでしょうけれども、私、今現在役員の副会長をさせていただいております。そういった中で、ちょうど13年前でしょうか、教育長も先ほどおっしゃったんですけれども、当時、人口減少を見据えて――市長だったか、おっしゃったんですけれども、総合学科としていろんな地域の方も巻き込んで検討会を何回も何回もやった経緯があります。佐賀県で先駆けて総合学科でスタートしまして、もう13年を経過したわけですけれども、毎回毎回私は感心するんですね。卒業式、入学式、また、総合学科の研究発表会行ったときも、本当に我々で感じなかった非常にすばらしい子どもたちなんですよ。自主性があって、自分で提案をして。なかなか社会が厳しいので就職も思いどおりいかないんでしょうけれども、それでも３年間の中で、いろんな順番を経ながらしている総合学科でありますし、ここ塩田町におきましては、塩田工業高校といって、本当に地域に根差したすばらしいものづくりの学校があるわけです。そういった点では２つの高校ですけれども、これをいかにして一緒に残すような形で新しい形の高校にしていくのかということをしっかりと検討する時間が欲しいわけであります。この説明会があったというのが本当唐突でありましたし、市民にも知らせる時間がほとんどなかった状態で迎えたわけであります。

今回、一般質問しています中で、そういった形にいく中で、佐賀県は、この前の資料で読んでみますと、基本的な考え方というのが３つありまして、これ、冊子をそのまま読ませていただきますと、１点目がグローバル社会への対応、２点目が産業技術の高度化への対応、３点目は教育機会のさらなる拡充とあります。これは非常に大事なことでありますし、特に今からまさにグローバル化の時代に合った教育の場をつくっていかにゃいけませんけれども、まさに２つの高校はそれを実践しているわけですね。そういった点で、それを縮小、統合、もしくは１つは廃校になるかもわかりませんけれども、そういったふうに向けていいのかというのが大きな私なりの認識を持っております。

ぜひ嬉野市といたしまして、市長、教育長におかれましては、この今の実態状況を、説明会を聞くのも、もちろん聞いてからということもあるかもわかりませんけれども、情報は多分におわかりでしょうから、ぜひ嬉野市でそういったことを関係各者と交わしながら県のほうに提言すべきことを逆に提案をいたしますけれども、市長いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先ほどもお答え申し上げましたように、県のほうには具体的に反対ということで伝えておりますので、私の結論はもうそういうことでございます。今後いろんなまた説明会も予定されておると思いますので、これはまた、いわゆるＯＢの方とか、いろんな地域の方も意見を出されると思いますので、私も一緒になって頑張っていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

市民の代表の市長ですから、非常に心強い御意見をいただいております。

もう１つ、手前での市民の機運ですか、情報の共有をしながら、それを一つの熱意としてまとめる必要があるんじゃなかろうかなと思いますが、そこについては重ねて質問をいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先ほど教育長から申し上げましたように、私どものほうで主に関係しますのは、鹿島実高さんの問題ですね。それから塩田工業、それから嬉野高校の３つが主に関係するわけでございますので、そこらについては、それぞれのＯＢの方とか、また、これからそこに行こうという希望を持っている子どもたちを持っている御父兄の方もおられると思いますので、そういう方々の意見をぜひ出していただいて、私どももそれなりに努力をしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

教育長、今の重ねて質問ですけど、市長に質問の件で御答弁が、考えがあられましたらお聞きします。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

お答えを申し上げたいと思いますけれども、私どもがいろいろ申し上げることはないかもわかりませんけれども、県は高校の設置者でありますので、設置者である以上は、やはり地域住民の声、特に今回はたたき台ということで出しているわけでございますので、そういう点では嬉野市民の声を十分聞いて、設置者としての役割を私は果たしていただきたいというふうに思います。

子どもたちの代弁をするとするならば、選択の幅が一本化された場合は、幅が少なくなるわけです、選択肢が少なくなるわけですよね。それと同時に、やはり通学距離の問題が長くなります。そういう点でいきますと、保護者、地域の方々の負担といいましょうか、市民の負担というのもかかわってくるわけでございますので、そういったことからいけば、やはり当初申し上げておりますように、子どもたちの数が少子化の方向に向かえといえども、２校を残していくというのが私は一つの提案と私たちは思っておりますので、そういう方向で市民の方々と連携を組みながら意見を申し上げていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山下議員。

○９番（山下芳郎君）

ただいま市長、また教育長から、非常に今現在の考えに反対、または存続ということで力強いお言葉をいただきましたので、引き続きそれに向けて、一緒になって進めていきたいと思っております。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（田口好秋君）

これで山下芳郎議員の一般質問を終わります。

一般質問の議事の途中でございますが、13時５分まで休憩をいたします。

午後０時４分　休憩

午後１時５分　再開

○議長（田口好秋君）

それでは、休憩前に引き続き一般質問の議事を続けます。

７番山口忠孝議員の発言を許します。

○７番（山口忠孝君）

議席番号７番、山口忠孝でございます。ただいま議長の許可をいただきましたので、質問書に沿って一般質問をさせていただきます。

この時期になりますと、３年前の東日本大震災が大きく取り上げられてきます。明日、３月11日で丸３年を迎えますが、復興もなかなか進まないところが現状であります。何事も簡単にいかないのが世の中でありまして、被災地に限らず、４月からは消費税の増税がありま

して、市民の負担は増すばかりでございます。

さて、地元嬉野にとりましては、１月26日に市長選挙、議会の改選があり、私もこの壇上に立って身が引き締まる思いで、市民の皆様のお役に立ちたいと考えております。

今回、一般質問には、たくさんの市長の方針について等の質問が出ておりますので、私は２項目を中心に質問させていただきます。

１つ目は商店街再生について、２点目はＩＣＴ教育と教育についてでございます。

商店街再生について、１つ目の質問として、商店街の空き店舗調査の進捗状況はどうなっているかということでございます。

２点目に、ＩＣＴ教育と教育について、午前中の山下芳郎議員の質問の中にもありましたけど、ＩＣＴ教育機器を整備し、英語を強化しますという公約がありましたが、具体的にどのような内容なのか。また、整備の開始や期間、予算などについて、わかる範囲で結構ですからお答えください。

壇上での質問は以上で、再質問につきましては質問席のほうで行いたいと思います。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対し、答弁を求めます。市長。

○市長（谷口太一郎君）

山口忠孝議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

お尋ねにつきましては、１点目が商店街の再生について。

項目別では、商店街の空き店舗調査の進捗状況はどうなっているのかと、どのような商店街を目指すのか。商店街のにぎわいを取り戻すにはしっかりとした戦略が必要だと思うがいかがかということでございます。

２点目は、私と教育長へのお尋ねでございまして、ＩＣＴ教育と教育についてということでございます。

１点目が、「世界へ羽ばたく人材育成のための小中学校のＩＣＴ教育機器を整備し、英語教育を強化します。」と公約の中にあるが、具体的にどのような内容なのか。また、整備の開始及び期間はどれくらいになるのか。２点目が、教育の真の目的は何と考えるかということでございます。

商店街の再生についてお答え申し上げます。

商店街の空き店舗調査の進捗状況についてでございますが、現在、調査対象となる商店街、調査対象店舗の台帳等整備を取りまとめているところでございます。今後は、台帳に不足している情報等について、空き店舗所有者への聞き取り調査を実施するように検討いたしております。個人情報も多いため、情報の取り扱いについては慎重に進めているところでございます。

２点目が、どのような商店街を目指すのかということでございます。

商店街の再整備につきましては、私の重要な施策の一つでございます。政策集にも掲げておりますが、以前、視察をさせていただきましたドイツのバーデンバーデンのように、長期滞在型の町並みを目指して、ブランド力のある商店街の個店を育て、外国からのお客様も多く訪れ、夢のある温泉地にしたいと考えております。そのためには、個店の魅力があふれる、地域の住民、また観光客が触れ合えるような商店街、また日本一魅力的な商店街を目指していきたいと考えております。また、平成34年春ごろの新幹線開通を見据え、国内外のお客様の動態を十分に意識しながら再整備を行う必要があると考えております。

次に、商店街のにぎわいを取り戻すためにはということでございます。

商店街のにぎわいを取り戻すためには、まず民間ベースでの議論が必要と考えております。そのために、まず若手観光産業従事者の研究会であります嬉野温泉にぎわいラボを中心とした組織で、議論を今後も充実、継続していく必要があります。また、多くの地元の識見を有する方にも御参加いただいて、さらに議論を深めていきたいと考えているところでございます。

２点目のＩＣＴ教育と教育についてでございます。

ＩＣＴ教育の機器整備につきましては、今議会に佐賀県先進的ＩＣＴ利活用教育推進事業臨時交付金を活用いたしまして、市内小・中学校に電子黒板等のＩＣＴ機器を導入するための基金を造成するために、積立金6,000万円の補正を上程いたしております。電子黒板及びデジタル教科書の整備につきましては、この基金を活用して、平成26年度から平成27年度までの２カ年を予定しているところでございます。また、ＩＣＴ機器のさらなる活用についても研究いたしたいと考えているところでございます。

以上で山口忠孝議員のお尋ねについて、お答えといたします。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

２点目のＩＣＴ教育についてお答えを申し上げたいと思います。

社会の情報化が急速に進展し、今後もさらなる情報コミュニケーション技術、ＩＣＴの発展が予想されます。学校においても、コンピューターやインターネット、デジタルカメラなどのＩＣＴが、多様な学習のための重要な手段として活用されているようになってきております。このような状況のもとで、児童・生徒が情報社会に主体的に対応できる情報活用能力を身につけさせることの重要性はますます高まってまいっております。また、わかる授業を実現し、確かな学力の育成に資するため、教職員がＩＣＴを効果的に活用した授業を展開することが重要となっております。さらに、教員の校務の効率化に向けて、教員１人１台のコンピューター整備などの校務の情報化により、教員の事務負担の軽減を図り、子どもと向き合う時間を確保することが求められているところでございます。

学校のＩＣＴ化は、これらの教育の情報化を通じて、教育の質の向上を図るために、学校教育に関連するさまざまな場面でのＩＣＴ活用を、ソフト、ハードの両面で効果的かつ円滑に進めることを目的として、国の重要施策として位置づけられているところであります。このような状況を踏まえ、嬉野市といたしましても、ＩＣＴ教育機器の整備として、平成27年度までに電子黒板を小・中学校の全ての学級に設置していただきたいというふうに思っているところでございます。

以上、お答えにさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

それでは、最初の質問から再質問させていただきます。

先ほど市長にもお答えいただきましたけど、商店街の空き店舗調査の進捗状況はどうなっているかということでございますけど、これは担当課のほうで直接面談を行って、所有者の方々の意向調査をするということでしたので、私も非常に期待しております。と申しますのも、意向調査とか、そういう調査関係はアンケートが多いんですよね。やはりアンケートだったらなかなか答える内容が決まってきますので、本当の意見というか、そういうのが出てこないので、今回、直接商店街に回られて、面談をされて、その所有者の方々とされたことと思いますので、その辺の状況からお話しいただければ。いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

観光商工課長。

○観光商工課長（山口健一郎君）

お答えします。

実は今、商店街の台帳の作成ということで、家屋台帳が税務課のほうにございます。それをもとにして取りまとめをやっておりまして、やっぱり空き店舗をずっと回ってみますと、所有者の方、ぜひ貸したいというところもございますし、どうしても住まいが一緒なので、ちょっとお断りするというような、いろんな意見がございます。その中で、やっぱりこれだけまち歩きの方が多くなっておりますし、その中でぜひ貸してもらいたいということでお話をしておりますけれども、どうしても地元の方ではなくてよその方が来られたりとか、どういう人かわからないというようなこともございますので、意向を聞いておりますと、やっぱり地元の方だったら、例えば、飲食店はだめだけれども、もう展示場とか、そういうのはいいよとか、そういう意見を今取りまとめている最中でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

今、具体的に、前回の空き店舗の補助金を利用して営業されておられるところがありますよね。現在どのような状況、うまく運営されているというか、どういう状況でしょうか。お聞かせ願えますか。

○議長（田口好秋君）

観光商工課長。

○観光商工課長（山口健一郎君）

お答えします。

多分議員言われているのは笹屋跡地のことだと思いますが、嬉野カフェのことだと思いますけれども、うちの商店街とか、いろんなイベントがございます。その中でも、芸能組合が利用されて踊りを披露したり、それとあと、あったかまつりのときですけど、長崎大学の落語研究会に来ていただいて、そこで落語をやったりとか、そういうふうにいろんなイベントでも活用をさせていただいております。

お店の繁盛状況ですけれども、聞いてみますと、やっぱり祭りのときは結構来ていただいたということでお話ありますし、また日本人ばかりではなくて、韓国人も２人とか３人とかで入られてこられると。１つ問題点が言われているのが、言葉の関係で、日本語表示ばかりですので、その辺を韓国語とか英語も踏まえて出していただければと。そういうところ、出したいということなんですけど、そういうのはうちのほうで、もし必要であればしますよということでお話をしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

今お話を聞いておりますと、なかなかうまくやってもらっているみたいですよね。やはりこういう空き店舗なんかを貸し出して営業されてもなかなか続かない、そういう事例が多いですよね。やはり補助金が出る間は何とかやっていけるけど、補助金がなくなったらもう営業はできないとか、そういう形の事例が多いので、なかなか難しいと思うんですよね。それで、今回、今お話をお伺いしましたら、カフェだけじゃなくて、落語とか、踊りとか、そういう別の方と連携してやっていらっしゃるというところがうまくいっている点じゃないかなと思うんですよね。だから、こういういい事例をほかのところにも広げてやっていただきたいなと思っております。

それと、商店街の雰囲気というか、そういうところをどういうところを考えて、これから空き店舗の中にもいろんなお店が入ってくると思うんですよね。だから、やはり統一したというとおかしいですが、ある程度の同じような雰囲気を持ったところがしてもらわんと、ち

ょっと雰囲気があやしいなど、そういういろんなこと考えられるじゃないですか、これからですね。多分貸されるところは、家賃収入を目的にされておられるでしょうから、そういうところもあるから、やはりそういうところは行政のほうで所有者の方と御相談されたり、そういう意向なんかはどうでしょうかね。

○議長（田口好秋君）

観光商工課長。

○観光商工課長（山口健一郎君）

お答えします。

実際、にぎわいラボといって、毎月１回、商店街の方々と話をさせていただいております。その中で、どのような商店街にしていこうかという話までは、ちょっと今のところまだ行っていませんけれども、商店街の紹介でマップをつくられたりとか、そういうところで今活動をされております。白黒のマップ、御存じないですか。そういうのが今つくられて、店の紹介をされて張り出しをされているところがございます。

あと今後ですけど、商店街をどういうふうに目指していくかということについては、地元の協力がないとどうしてもできないところもございますので、話し合いを重ねて進めていきたいとは思っておりますが、準防火地域ということで防火地域が入っていますので、外装関係では材質も限られてきますし、いろんな条件が、多分景観とかの条例もありますので、その辺を完備しながら、今後、一緒に話し合って、どういうふうなまちにしていくかということは話し合いで進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

今、町なかが少しずつにぎわいを取り戻しているとおっしゃられましたけど、今、ゆるキャラブームといいますか、そういうのが人気が、マスコミなんかに取り上げられて、あちこちでテレビなんかも出ておりますけど、嬉野には「ゆっつらくん」でしたかね、がいらっしゃいますか、おりますというかですね、いらっしゃいますけど、日ごろ商店街にそういう、別にイベントとかは時々見かけるんですけど、そういうところには出かけてはないんですかね。そういう顔、常日ごろ、ああいうシーボルトの湯からあの商店街ですよね。足湯のあたり、あの辺でみんなに愛きょうを振りまいたりとか、そういう活動はやっていないんですかね。どうですかね。

○議長（田口好秋君）

観光商工課長。

○観光商工課長（山口健一郎君）

ふだんはそういう活動はやっておりませんけれども、祭り、イベントのたびに出てもらったりとかはしております。市内ではないですが、あとＰＲ活動で福岡、長崎に行ったりするときも、向こうで「ゆっつらくん」が動いてもらうというようなことは結構頻繁にあっていると思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

やはり地元で名前と顔を売って、それをみんなにアピールしてもらうというのも大事じゃないかなと思うんですよ。やっぱり福岡とか、あちこちちょっと行かれて温泉をアピールされることも大事でしょうけど、嬉野にお見えになったお客さんたちに、どうしても形からすると跳んだりはねたりはちょっと厳しいようなつくりになっていますので、それはもうああいう人気者とは、ちょっと私も無理は言いませんけど、また違う形で、まちの顔というとおかしいでしょうけど、活躍していただければと思っているんですけど、ちなみに、私、どう言うとがいいかわからん、中には誰か入っておられると思いますけど、それは誰でも――誰でもいいというとおかしいですが、貸し出して、例えば、その方にしてもらうということもできるんですかね。それは市の所有物ですので、そういうことはできませんとか、そういうことがあるんでしょうか。どうでしょうか。ちょっとその辺のこと。

○議長（田口好秋君）

観光商工課長。

○観光商工課長（山口健一郎君）

お答えします。

「ゆっつらくん」は観光協会のものでして、それを使うときには当然使用許可証を出していただくという形になります。で、その中でいろんなルールを決めておられまして、営業というか、もうけるためにＰＲ用に使うとか、そういうときには多分幾らかの使用料を取られていると思います。全て観光協会の所有ということでしていますので、そっちのほうで、例えば、ふだん観光のお客さんに出すにしても、観光協会の人に、組織に話をして、今後、そういうふうなことができるかどうかという判断は向こうにしてもらわないといけないというふうに思います。できるだけ使っていただくように、頑張って話はしていきたいというふうに思っています。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

せっかくですね、イメージキャラクターと言うとおかしいでしょうけど、嬉野の顔として

ありますので、ぜひそういうものを活用していただければなと思っております。

もう１つ、課長も以前、ちょっとお話されたことがあると思うんですけど、歩行者天国、商店街の一方通行ですね。やはり町なか、今までは車社会だったでしょうが、これからはやっぱり歩いて回るというから、人を中心に考えるなら、時間的なものとか、曜日とか、そういうものとか制限されて、一方通行。それなりに皆さん、地元の方の理解も必要でしょうけど、町なかの商店街の中をそういう形に持っていく話なんかは、そういう商店街の方たちの話し合いの中でもそういう話は出てきてないでしょうか。

○議長（田口好秋君）

観光商工課長。

○観光商工課長（山口健一郎君）

お答えします。

以前に、今のカラー舗装になるときに１回、もう何年前ですかね、十四、五年ぐらい前になると思いますけど、一方通行の話があって、どうしても皆さんから賛同が得られなくて今の状況になったというのはあります。その後もお話は何回かあっていますけど、どうしてもやっぱり空き店舗等がまだ多いと。それを何とか解消して、次の段階でしょうねということは地元の方が言われていますので、そういう空き店舗の解消を、個店の分を先に解消していって、それからその中でにぎわいがどんどんどんどん出てきて、安全・安心、市もうたっていますので、その辺を完備しながら話し合いをして、新幹線の駅が開通するまでにどうできるかということは模索をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

ぜひそういうことも検討していただきたいと思っております。

それと、今、シーボルトの湯を町なか、中心としますけど、足湯がありますよね。上のほうまでは何とかありますが、下のほうにもう１つ何かこう、そういう施設とか、そういう何か利用できるような対象というか、そういうものがあれば、またもう一回り大きく人の流れがなっていくと思いますけど、そういう具体的にどこか御相談できるようなところがあったら。なかったらあれでしょうけど、もし考えておられたらお願いします。

○議長（田口好秋君）

観光商工課長。

○観光商工課長（山口健一郎君）

お答えします。

確かに、上のほうはにぎわって、下のほうはがらがらという話は聞きます。ですが、観光

スポットとして利用できるような土地があるかというと、それはまだうちのほうも当たっておりませんし、幾つか空き地みたいに駐車場兼用になっているところもございますし、その辺はあるんですが、どうしても地元からのもう少し盛り上がりがないとなかなか先には進めていけないんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

やはりこれからまちづくりは、物を売り買いするだけじゃなくて、やはり交流というですかね、そういう人が集まるようなスペース、場所、そういうまちづくりも必要だと思うわけですよ。だから、私なんかも、ちょっとこう、いろいろですが、アイデアはあるでしょうけど、そういう町なかに、例えば、歩いたりすると疲れるじゃないですか。そいけん、マッサージね、嬉野ありますので、そういう方がちょっと借りて、昼間ですよ、よその方のためにそういうのを時間的にできるようなことも考えて、そういうお客さんの立場、消費者の立場ですよね、お客さんの立場、そういうものから見た施設、場所とかそういう提供ができるようなことを考えたらどうかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

観光商工課長。

○観光商工課長（山口健一郎君）

確かにお客さんのおもてなしという意味では、そういうサービスは必要かなと思います。ですが、具体的に、ちょっとどういうことをやるというのは、今のところ計画ございませんので、今後、その辺も含めて、にぎわいラボ等を通じて、地元の若手の人たちと話し合いをしながら進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

今、大体いろいろお話を伺っておりますと、地元の方と行政の方、地元の商店街の方々とお話というか、コミュニケーションがよくとれて、うまくやってもらっているなという感じがします。ぜひ、嬉野はよその商店街と違って観光という面も持っておりますので、そういうところを生かして、これから地元の方々と一生懸命頑張ってもらいたいと思いますので、どうかよろしくお願いしておきます。

それと、課長に１つ、私、こういうところでお話をしたいなと思ったことが１つあるんですけど、３月２日、オルレのオープニングのセレモニーがございましたよね。私も出席させ

ていただきました。そのとき、そのオルレの主催者の女性の方が挨拶に立たれたときに、課長が呼ばれて紹介されました。私、それをはたから見ておって、やはり何かうまくやっていらっしゃるなと感じたんですよ。やはりそこじゃないかなと思うとですよね、何でも物事をやるときはですよ。だから、私もいい光景を見せてもらったと思っております。韓国の方がわざわざ課長を指名して壇上に上がってくださいと、お礼を言いたいと。オルレの神様がおりたとおっしゃったとか、そういう話をされて、私も初めて聞きまして、よかったなと思っております。ぜひこれからも、オルレのほうもいろいろ、観光施策も一番忙しいでしょうけど、ぜひ頑張ってやってもらいたいと思っておりますので、よろしくお願いしておきます。

○議長（田口好秋君）

観光商工課長。

○観光商工課長（山口健一郎君）

頑張っていきたいと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

すみません、それでは次の質問に移らせていただきます。

私、よくＩＣＴのことを取り上げますので、よくほかの方から教育の専門家とか言われますけど、そういう気持ちは毛頭ございません。ただ、自分が生まれて生きてきて、こういう立場で物を言う立場になったときに、何が一番基本になるかといったら、やはり自分が受けてきた教育というですかね、そういう自分が学んできたことが基本になっておりますので、教育というのは大事だなと。世の中をつくったり、変えたりしていくときにも、やはり自分が小さいころから受けてきた教育は大事だなと思うから、こういう場でも発言させていただいております。

そしてもう１点、ＩＣＴに関しては、そういう情報機器が全く私は必要じゃないとは申しておりません。ただ、小学校とか、中学校とか、低学年、初等教育ですね。その辺ではもう少し別のことをやったらその分いいんじゃないかなと、私、常々思っているものですから、毎回こういう質問をさせていただいております。

そこで、ＩＣＴは、私、予算書を見たら、経費が大分かかるんじゃないかなと思って、前年度の予算を見ていましたら、小学校、中学校のパソコンとかリース料ですよね、そういうのを合計してちょっと見てみましたら、やはり小学校、中学校、年間3,695万円。予算額、去年の予算もですね。ことしもほぼ同じような金額が上がっております。やはりこういう情報機器を入れて、ずっとどんどん新しいのが入ってきたら、これはリース料ですよね。リース料ということは、よそにお金を払うんですよね。子どもたちじゃないですよね。そういう

ところも会社がもらうわけですね。機械を貸してもらって、その分を払うわけですから、それだけの金額の大きい予算を毎年毎年つぎ込んでいかなくてはいけないと。こういう情報機器のですね。確かに悪いことはないでしょうけど、そういうことも、費用対効果じゃないですけど、そういうところまで、子どもたちの今の、本当にこういうのがある程度のところでいいんじゃないかなと私は思うんですけど、やはり世の中の流れと言われたらもう仕方がないんですけど、そういうところはどんどんどんどんやはり取り入れていかれるつもりでしょうか。いかがですか。教育長、どういうふうにお考えでしょうか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

ＩＣＴ教育についてお答えしたいと思いますけれども、議員もよく教育のことについては知っていらっしゃいます。連れ合いの方も学校の先生だし、息子さんも教師を目指していらっしゃいますので、そういった面では非常にありがたい話であると思っております。ただ、教育には金はかかると私は基本的には思っております。いわゆる人づくりは教育からというふうなことでですね。したがって、今、グローバル化の話もありますけれども、やはり不易と流行の部分があるわけでございますので、その意味では流行の部分での人づくりというのも非常に大事ではないかというふうに思っておりますので、実際、確かにお金はかかります。国も、さらに設置権者である市町村で電子黒板については持つようにということでありましたけれども、今回だけは、26年、27年に限って、つけるところには県から１台当たり20万円の交付金が来るということでございますので、そういったところで20市町、それぞれ全小・中学校で電子黒板はつけようということで申し合わせがなされておりますし、市長会のほうでもそういうふうに申し合わせていただいたというようなことでございますので、ぜひこの機会に嬉野市内でも、来年度まで、27年度までに配備をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

今、教育長が教育にはお金がかかるとおっしゃいましたけど、私もそう思いますけど、かけるところが違うと思うんですよ。私はもっと人にかけたらいいんじゃないかなと思います。今、教育長がおっしゃいました、ただ、時代の流れが、こういう時代ですので、県のほうからそういう補助金を今年度に限って出すと言われたら、それはもう受けざるを得んですよね。今、佐賀県は特にＩＣＴの先進県として知事が旗振ってやっているからですよ。なかなか難しいところだと思います。ただ、やはり何でこういうことを問題にするかというと、私も今

の世の中、問題が多いじゃないですか。幼児虐待とかいじめ問題。学校も今、いろんな防止委員会ができていますよね。それとか、いろいろセクハラとか、ＤＶ、家庭内暴力、いじめ、自殺も多いですよね。こういう社会になったのはどうしてかなと、私いつも考えておるんですよ。やはり小さいころの学校の中の教育、小さいときの教育が一番大事じゃないかなと。だから、やはりＩＣＴというのが、それはもうグローバル化の社会ということは全世界とつながるということですけど、そういう、何というか、弱肉強食じゃないですけど、新自由主義という、もう強い者が世の中は残っていくという、そういう考え方に基づいて今の時代ができていると思うから、私はそういうのは少し、小さいときはですよ。大人になった場合は、それはそういうところで生きていかんといかんからしょうがないと思いますけど、小さいときにもう少し基本のところを、もっとしっかりそういうところを大事に育てて教育してもらいたいなと、そういう思いが強くあるもので、あえてこういう時代の流れに逆行して、ＩＣＴ教育の初等教育に導入は、私はほどほどでいいんじゃないかなと。率先してやる必要はないと思っておりますので、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

お答えを申し上げたいと思いますが、議員は個人的にはほどほどということでございますけれども、嬉野市の電子黒板の充足率は今31％しかございません。したがって、目標とするところは、27年度までに普通学級全学級にと思っていますので、100％を目指しているところでありますけれども、ただ、電子黒板を入れることによって教育の指導の幅、エリア、これは非常に広がるわけですね。そして、子どもたちにとっても、人づくりのためのツールとして電子黒板を使うわけでございますので、そういった使い方をしていくということで、今、導入をしてきているわけでございますので、これはぜひそういう具合に御理解をいただきたいというふうに思っております。

小学校のとき、初等教育ではというふうにおっしゃるんですけれども、子どもたち自身は、例えば、タブレットあたりが入れば、そこら辺はどこまでかということでちょっと考えなくてはいけないかもわかりませんけれども、電子黒板は黒板とともども２セット、黒板と電子黒板を使うことによって、より効果的な学習ができて、いわゆる将来の嬉野の子どもたちの育成が達成できるというふうに思っております。そういった意味では、ぜひ御理解をいただきながら、それと同時に、ぜひ電子黒板を使った授業を現場で見ていただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

この問題はなかなか難しいところがあると思います。私もそのことはもう重々承知して御意見を述べさせていただいております。

次に、いろんなこういう、もう先ほど電子黒板、電子黒板という言葉がよく出てきますので、電子黒板ありきのことかなと、私はちょっと皮肉を込めて言えばそういうふうになりますけど、道具として電子黒板を導入されると思いますけど、次に上げております教育の真の目的は教育者としてどういうふうに考えておられるか、御見解をお願いします。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

お答えをいたしたいと思います。

教育の真の目的ということでございますけれども、これについては教育基本法の第１条にきっちりと述べてございます。念のため話をしますと、「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」という具合に規定をされております。したがって、本条で規定をしている教育の目的は人を育てることであります。ここでの教育の目的としては、どのような目標に向かって人を育てるか、またどのような人を育てることを到達の目標とすべきかについて規定をされているところであります。さらに、本条の構造上のことで見てまいりますと、教育の目的は、人格の完成を目指す、そして平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身ともに健康な国民の育成をすることが目的でされているというふうに私は思っております。

これらのことを言葉をかえて申し上げますれば、人生をよりよく生きるための土台づくりではないかなと。すなわち生きる力をつけるには、つまり知・徳・体の調和のとれた育成と社会のよき形成者としての資質の育成が求められていることだと思っております。そういうふうなことで学習指導要領を受けております。

それから、社会的な要請の視点から述べますと、情報化やグローバル化など、社会の変化が進む中、こういった社会の変化に応じ対応できる力を育成することは、社会のよき形成者としての資質を育てていく上でも重要なことだというふうに思っております。

こういう具合に教育基本法、あるいは学習指導要領、社会的な要請、そういうところから目標は設定されているものと思っております。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

今、教育長がお答えになった教育基本法ですね。これは前のやつでしょう。前のやつと言うぎ失礼ですけど、1947年３月制定された。今回、2006年に第１次安倍政権が教育基本法を改正しておりますよね。それは御存じですか。そして、その文面と少し内容が変わっておりますよね。私も先ほどその分を調べておりますので、ちょっと述べさせてもらいますと、2006年に全文を改めた現行の教育基本法は、（教育の目的）、第１条として、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」。間違いないですよね。大分変わっていますよね、内容が少し。この辺をどう感じられますと言うぎ失礼ですけど、この抜けているところは、「真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身」ですよね。この分がもう省略されております。その辺のところをどう感じられますか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

お答えを申し上げます。

子どもたちの精神面、心身ともに健康でというのは基本ベースにあるわけですので、それを支えていくのが、構築しているのが教育であるというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

教育行政学者である宗像誠也という方が有名な言葉を残しておられるので、教師は一体何の権利があって人の子を教育するなどという大それたことをしているのかと自分に自問されて、みずからに問いかけられて、その答えとして、真理の代理者として教員という立場があると自分で答えられております。国とか、国家とか、そういうものじゃなくて、やはり人として育てるのが教員の最終的な目的じゃないかと私は考えるんですけど、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

お答えを申し上げたいと思いますが、私の言葉で表現しますと、人生をよりよく生きる力ですね。今、嬉野市では「生きる力」の教科書というのをつくっておりますけれども、それに尽きると思いますけれども。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

私は、こういう言い方は失礼でしょうけど、子どもたちに、今、学校は、前回もお話ししましたけど、やはりどんな社会でも一緒なんでしょうけど、管理社会になっているんですよね。学校に限らず、こういう行政の立場にしてもですよ。物すごく感じます。だから、みんななかなか自分が思うような意見も言えないし、ある程度みんなの中でうまくやっていくのも、それも一つのあれですけど、やはり自分の個人を大切にするというか、そういうことをもう少しやっておかないと、子どもたちが大人になったとき、次の世代を担うときに、社会を担うときに、果たして大丈夫だろうかなと私は危惧します。やはりそれは、もう小さいときの教育に尽きるんじゃないかなと私は常々考えております。それはいろんな仕組みとか、世の中は変わってきますので、わかりはするんですよ。こういう道具が、いろんなものが、新しいものがどんどんどんどん出てきてですね。かといって自分の息子、子どもたちをどう育てたかと言われると、私も自信がありませんけど、申しわけないんですけど、やはり教育というのはそういうところをもう少し大事にしてもらいたい。基本と言ったらおかしいですけど、今そういうのが逆に、道具とかそういうものに物すごく目が行って、お金も行って、行き過ぎているから、そういう、もっと素朴なところに目を向けてもらいたいなという気持ちが物すごく私は切実にあります。そういうところを皆さん方で考えていただいて、またこういういろんな考えはありましょうけど、教育行政のほうもやっていってもらいたいなというのが私の希望であります。いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

お答えを申し上げたいと思いますが、今、グローバル化の社会で、変化の激しい社会であります。それであるからこそ、前回も答えたと思いますけれども、家庭と学校と地域と連携を組んで子どもたちを育てていこうということで、平成14年から学校週５日制というのがスタートしたわけですね。そういったことで、特に嬉野市では校長先生の知恵袋等を立ち上げて、いろんな地域の方との連携の様子を、あるいは専門家を入れてということを組み込んでおりますし、コミュニティ・スクールで、さらに地域に開いて、地域の方から入ってきていただいてということで、学校だけの力じゃなくて、地域と保護者との総合力という立場での教育を進めているところでございますので、そういうふうなことで私はもう順調に今いっているものと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

なかなかこの問題は答えというのがないから、私もどこで最後にあれしようかと思っているんですけど、やはり教育の主役というとおかしいでしょうけど、目的といったら語弊がありますけど、要は子どもたちですよね、問題にするのはですね。大人がああだ、こうだじゃなくて、子どもたちのためにやっているんですよね。そこをやはり考えてもらう。一番その根底に、それはもう常日ごろ考えていらっしゃって、いろんな施策をやっていらっしゃると思いますけど、何かこう、周りにいろんな、私も上手には表現できませんけど、外野のいろんな声が入ってきて、もうああせんといかん、こうせんといかんとか、そういうのが私、感じるわけですよね、今の時代をですね。だから、要は子どもたちのためにと思って先生たちもやっていらっしゃると思いますけど、なかなかそういうのが見えにくいというのを感じます。やはり管理社会と先ほどから申しましたけど、上のほうから、学校は教育委員会、また市の教育委員会は県の教育委員会、文科省とずっとありますので、そういうところの一元的な流れがあって、今いろんな、国のほうでも教育委員会の改革みたいなのが進められていますけど、形だけ変えるだけでは解決しない問題が多いと思うんですよね。だから、そういうところを、一番我々末端――末端というか、一番現場に近いところにおるものですから、お互いそういうところで、子どもたちのためということを考えて、本当にそういう教育をですね。今もやって、今までやってきてもらっておるとは私も思っておりますけど、今度、こういう新しい、どんどんＩＣＴのいろんなものが、今から１つ入れたら、じゃあ次と、どんどんどんどんなっていくから、その辺のところを見きわめて、私も本当の教育を、もう目的を見失わないようにしてもらいたいというのが私の願いであります。いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

お答えをいたしたいと思いますが、議員がおっしゃっていることもわからないわけではないわけでございますけれども、要は私たち教育委員会では、私自身もですけれども、特に義務制では子どもたちが大人になるための、支援するというんでしょうかね、そういう立場で動いておりますので、あるときは職員は子どものために、一応管理体制は、ある一定の管理体制は必要だというふうに思います。したがって、子どもたちは将来の嬉野市民を支える卵でありますので、そういった意味ではきっちりとした形で学力もつけてやらなくちゃならないし、コミュニケーション能力もつけてやらなきゃいけないし、豊かな心もつけてやらなきゃいけないというふうに思っております。ですから、そういった意味では、教育委員会だけでは、学校だけではいけない部分がありますので、地域でありますとか、家庭でありますとか、ぜひそういう方々と連携を組んで、トライアングルを組んで、教育には邁進をしてきておりますし、今後もしてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口忠孝議員。

○７番（山口忠孝君）

ぜひ私の意を酌んでとは申しませんけど、どこか心の片隅にとめて、これから、今後とも教育行政に頑張っていただきたいと思います。

最後に、ちょっと私、ある本から引用してきましたので、ちょっと読ませていただきます。

「小・中学校基礎教育の目的は何か。子どもたちに、その家庭的、地域的、経済的条件に制約されることなく、人が人として社会を生きるために必要な基礎知識を習得させるとともに、豊かな感性を養うことである。また、生活者として、社会人としての最低限のルールを身につけ、地域社会はもとより、国全体、さらに国際的視野を持った人間へと育てることである」とあります。ぜひそういうことを念頭に置かれて、これからもよろしくお願いして私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（田口好秋君）

これで山口忠孝議員の一般質問を終わります。

引き続き一般質問の議事を続けます。

11番芦塚典子議員の発言を許します。

○11番（芦塚典子君）

議席番号11番、芦塚典子でございます。議長のお許しをいただきましたので、通告書に従い一般質問をさせていただきます。

現在、日本経済は穏やかな回復基調にあり、地域経済も以前よりは好転しておりますが、４月の消費税引き上げ後の景気減退も予測され、予断を許さない状況にあります。このような地域経済動向の中で発足する今期４年の市政運営については、着実に成果を出すことを期待されて求められていると思います。特に観光や農業などの基幹産業の振興、歴史と自然など地域自然を活用した経済活性化による地域浮揚策が求められております。今後施策を展開していくにはこれらの市民の期待、あるいは要望に対して着実に施策を展開していくだけの財源の裏づけが必要であると思います。しかし、政府の地方交付税に頼らざるを得ない現状の交付税の仕組み、あるいは財政力格差が大きい地方では新たな財源を確保することも困難であります。

このような地方公共団体においては厳しい財政状況ですが、このような経済情勢の中で進められる新しい市政の嬉野市独自の政策展開をお伺いいたします。

まず、今後の財政収支の推移展望をお伺いいたします。

次に、財政収支の健全化に向けた施策をお伺いいたします。

以下は質問席にてお伺いいたします。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対し答弁を求めます。市長。

○市長（谷口太一郎君）

芦塚典子議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

お尋ねにつきましては、市政運営について、特に財政問題についてのお尋ねでございます。

今後の財政収支の推移展望を伺うということでございました。

我が国の景気は昨年夏に勢いが鈍化したと言われているものの、内需の堅調な伸びも認められ、再び回復ベースが加速したと言われています。公的ものでは緊急経済対策の本格派に伴い公共投資の増勢も続いており、景気の押し上げを支えているとの分析もございます。さらに九州沖縄地域におきましては、景気は穏やかに回復してきているとされ、個人収支は消費者マインドの改善などから持ち直しの動きも見られます。住宅投資につきましては、着実に増加しております。また、公共投資の大幅な増加を続けていると分析されています。

今後の嬉野市の財政収支の推移展望についての御質問でございますが、県へ提出しております平成25年度中期財政計画でも嬉野市を取り巻く財政状況は、市税や地方交付税などの一般財源の伸びは見込みにくい状況の中、扶助費、公債費等の義務的経費や一部事務組合への負担金の増加、またこれからの財政需要見込みではやはり厳しい状況が予想されます。そのようなことでございますので、計画期間中の不足する財源につきましては、基金からの繰入金や借入金を充当することで収支均衡を図っているところでございます。

次に、財政収支の健全化に向けた施策についてお答え申し上げます。

財政収支の健全化につきましては、合併後、嬉野市行財政改革大綱及び集中改革プランを策定し、平成22年度までの５年間、歳入の確保、歳出の抑制、組織機構や事務事業の見直し、職員定数の削減などの改革に取り組んでまいったところでございまして、現在第２次行財政改革大綱を策定し、事務事業の見直し、民間委託、指定管理制度活用の推進、組織機構の見直し、定員管理の適正化、人材育成の推進、市民参加による協働のまちづくりの推進、財政の健全化の６項目を取り組み、内容としてさらなる行政改革に取り組んでいるところでございます。

以上で芦塚典子議員のお尋ねについてお答えといたします。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

説明をしていただきました。平成18年合併をして以来、平成25年度の昨年度の財政状況を見ますと、25年、26年は大型事業の完成期で財政状況はかなり悪化しているというのが本当だと思います。今後の推移というのですかね、今後の推移をお伺いしたいのですが、まず、

平成18年度の財政収支に関して一番重要なことは、自主財源がどのように推移しているかということが第一の問題なんですけど、平成18年に自主財源が33.12％、平成19年が自主財源36.47％、平成20年が35.53％です。今年度が大まかな推移なんですけど、平成26年度には28.72、平成27年はあと29.07と自主財源が今までかつてないように厳しい状況になっております。これはもちろん今まで３年間ですね、通して大型事業を完成していただいて、もちろん公債費の負担比率が大きいということでありますけど、この自主財源を今後どのように高めていかれるかという、そういう施策を健全化なんですけど、施策をもう一度。今まで言っていただいたのは行財政改革等による財源の歳出削減でしたので、今後五、六年間の推移というのをどのようにしてこれを上昇させることができるかというのを市長にお伺いしたいのですけど。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆる自主財源ということになりますと、私どもの全体の費用の中では、その当該年度の予算組みによって大きく変わってくるわけでございますので、その比率自体についてはさほど問題ないと思いますけれども、問題は自主財源の額ということにつきましては、非常に神経を使いながら取り扱いをしておるというところでございます。

そういう中で、今お話がずっとあっておりますように、それぞれの地域の産業の活性化、または、いわゆる人口増対策と、そういうものを取り上げることによって、長期的な自主財源の確保をしていかなければならないというふうに考えておるところでございます。比率自体につきましては、その年度年度で予算を組みますので、いろんな事業の動き方によって違うと思いますが、できる限り自主財源の額はやはり上げていく努力をしなくてはならないというふうに思っております。一昨年は、いわゆる特別に防災対策ということで市税の一部御負担をお願いしたということもございますけれども、通常の場合はそういう例はないわけでございますので、できるだけ、やはり企業の活性化、そういうところで自主財源の確保ということをやっていかなければならないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

自主財源の確保ということで、細かい施策についてお伺いしたいんですけど、議案の18号で施策が展開されておりましたので、議案のほうで施策展開を最後お伺いしたいと思います。

それで、嬉野市の新しい運営ということで、市政運営ということで市長のマニフェストと

いうのを私も伺わせていただきました。それで、ちょっとそういうところから財源のほうを検証していきたいと思うんですけど、各地域にコミュニティーセンターをつくる、学力日本一の嬉野市を目指す、嬉野茶10年連続日本一を目指して基盤整備、茶工場の整備、日本一農業をやりたくなる市、新幹線整備を積極的に進め、日本一のユニバーサルデザインで人に優しい駅の実現、国際コンベンション施設整備、日本一魅力的な商店街に、それから、企業誘致を積極的に進め、今後４年で500人の雇用創出、店舗リニューアルに助成金制度創出、中国への海外戦略、オリンピック・パラリンピックキャンプ地としてのＰＲ、日本一元気で長生きできる嬉野市等ですね、先ほど山下議員がおっしゃった、これにもう１つ、国際教育ナンバーワンというのを入れましたら、日本一が６個ぐらいあるんです。どこかの事業仕分けじゃありませんけど、どうして日本一なのですか、市長にお伺いしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私どもとしてはさまざまな施策を考えているところでございますけれども、常にやはり最高のところを求めていきたいという一つの基準が日本一ということで、私としては目標に努力をしていきたいというふうに思っております。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

これは期間的にどれぐらいで日本一を達成するという予想がおありでしょうか。１つでもいいですけど。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

冒頭の議員にもお答え申し上げましたけれども、できる限り６月の補正で組めれば組んでいきたいと思っておりますし、それでも非常に厳しい場合はこの４年間でちゃんとした成果が出るように予算組みをしていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

日本一は本当に気合いとしてはすごく大事だと思っております。先ほどの議員のように、

日本一になるには、秋田の教育、日本一ですね、50年かかっております。今、秋田財政力、物すごく悪いです。財政力が傾くように教育に力を入れて、50年後に日本一になります。私たちの中学時代に施策を展開しておられるようです。

市長の言うことで、さっきＩＣＴでおっしゃったように、ああいう機器を投入するというのは私はすごく賛成しております。まず教育環境が整備できないと日本一は目指すことはできませんので、ただ、そこで問題なのは、財政力というが、やっぱりこの日本一になるですね、基盤というのか、財政力がないと日本一はできないと思うんです。財政力指数というのを嬉野市ちょっと検証したんですけど、25年度が0.39です。0.39で今1.0というのは東京とか愛知ですよね、1.0。0.23というのが一番佐賀県では下の市町があります。1.43というのが上位の町ですね、1.43。うちは25年度で0.39です。0.39で15位です。あとは町が並んでおります。下のほうから５番目なんです。下のほうから５番目で財政力が弱いということなんですよね。本当にいろんな施策を展開していくには、日本一になるには財政が基盤にないと日本一はできないと思うんです。だから、私は６つの日本一を掲げるんじゃなくて、１つ日本一を決めてはいかがですかと。そうしたら、６つ日本一は難しい。多分財政力指数からいきますと、これも18年の合併時なんですけど、18年はですね、今0.39なんですけど、平成18年度は0.457です。19年度が0.458です。20年度が0.451です。22年度が0.40で、25年度が0.39です。この後もまたちょっとお伺いしたいんですけど、今0.39というのは、ちょっと0.40で検索したんですけど、全国で997番目の財政力です。全国で997番目ですよね。で、日本一を目指すというのは、すごい長い年月と財政の基盤の強化が必要だと思うんです。一番に施策を本当に日本一持ってくる気持ちはすごくわかります。私も教育は日本一になってほしいと思います。農業の日本一も私は望むところです。やっぱり新幹線が来ても通過駅になってほしくないというようなのがすごくあります。そういう日本一を目指すというのには、私は一番最初に考えるのは、財政にメスを入れるという、硬直した財政をもっと進捗させる、そういうふうな施策をまずベースに持ってきて、そして教育日本一、農業日本一というのを考えていくべきじゃないかと、私は現在思っております。

そういうことで、今までの、今年度の財政はそんなに落ちております。今後のですね、今後６年間ですか、６年間は交付税交付金がちょっと上がりますので、今の現状の財政力で持っていけると思います。その後、財政が急激に、本当に交付金が急激に落ちます。多分６億円から７億円落ちていくと思います。その中で日本一を目指すには何を集中的に嬉野市として持っていっていいかというのを考えていかなければならないと思うんです。そういう面で、日本一６つ上げていらっしゃいますけど、市長としては一番力を入れたい日本一というのはどの日本一なんでしょうか。すみません、上げられないかもわからないですけど、しいて言っていただけるならば。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

合併時にていろいろお話もいたしました。そのときに自主財源の比率の問題も協議をしたことございますけど、その当時嬉野ほうが高かったわけですね、塩田のほうが低くて合併して下がるというのは当然わかった上でお互い協議をしてきたわけでございますので、そこら辺については十分御理解をいただきたいと思います。

そういう中で、合併をいたしまして、これは新しい自治体ができて厳しいけれども、いわゆる行革をやって乗り越えていこうということで取り組みましたのは第１次の行革で、そのとき議員もいらっしゃいましたし、それなりの成果はちゃんと出してきたわけで、今、第２次の行革を行っているということでございますので、そこらについてはぜひまた御理解いただきたいというふうに思っております。私は財政というのはそういうふうに考えておるところでございまして、そういう点でいろんな財源を組み合わせながら乗り切っていくというのが今の、要するに自治体のあり方だというふうに思っておりますので、今後も努力をしてまいりたいというふうに思っております。

そういう中で、全体的な予算が膨らみますと、当然いろんなところでひずみが出てくるわけでございますので、ぜひ無駄がないようにいろんな政策についても精査をしながら取り組みをしていきたいというふうに思っております。

今、教育の日本一のことで50年という話がありましたけど、私は努力次第では到達できるというふうに思っておりまして、実はいつもお話をするときに、この前の前々回の議会で教育長からの報告あっておりましたけれども、嬉野の中学生のある教科につきましては、全国の３番から５番の間に入るところまで上がってきているわけですので、私はそれをもう一頑張りしてですね、全体が上がっていくようにして日本一を目指していこうということで、どこでも説明をしてきているわけでございますので、必ずできるように努力をしていまいりたいというふうに思います。

また、お茶につきましても、今まで５年連続を続けておりますので、これにつきましては、やはり生産技術は非常に上がってきております。ただ、これからやはり販売の努力を重ねていって、そして、要するに10年日本一になって、そしてその販売力にもっとスピードがつけられるように努力をしていきたというふうに思っておるところでございまして、決して無理な数字ではないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

はい、ありがとうございます。特に行財政改革で５年間で25億円削減されていらっしゃるので、それの評価はいたします。しかし、さらに第２次行革でということで、そのときにまた一般質問で論議を醸し出させていただくと思います。

また、教育日本一というのは、本当に人材教育はこの嬉野市の人材教育だと思いますので、ぜひ将来の嬉野市を担っていく人材教育だと思いますので、ぜひ教育のほうには力を入れていただきたいと思います。

それと、お茶ですね、お茶は本当に大浦慶さんという方がかかわって嬉野茶を本当に世界に広げていただきました。その資料もまだ眠ったままであります。もっとこれを活用していただければ。お茶の、この前に資料が届いていると思います。大浦慶さんのですね。そういうのを活用していただければもっとお茶は売り出されると思います。そういうことで、ぜひ期待したいと思います。

そういうことで、最後の行政改革に対する議題については18号が出ておりますので、次の一般質問か議案審議のときに質疑させていただきます。

そして、次が――すみません、終わりじゃなくて展望を言うつもりでした。すみません。今後のですね、今までの、合併当時から本当に、今、最悪の財政力指数のときに市長にお伺いしてすごく申しわけないと思っています。今は本当に大型事業が完成期にありまして0.399ですね、恐らく日本で1,000番ぐらいの財政力だと思います。今後交付税措置がつながっていきますと0.4、ちょっとこれは私が概算で出したんですけど、27年が0.406、特に概算で出しました。で、28年度が0.409、29年度が0.412、30年が0.415、31年度が0.418で、32年度になってやっと0.421に上がります。６年後ですかね、上がります。ただ、0.420上がっても、県下では１つ上がるだけなんですよ。もっとですね。本当に合併した当時0.45か46ぐらいまで財政力指数を上げていって、そして施策をしていくということがすごく必要じゃないかと思います。

そういうことで、やっぱり第２次行政改革というのがすごく必要で、ここで本当に財政にメスを入れて、また、市場化テストとか評価テスト、あるいは民間を活用した共同ですね、これがさらに公共化というのが今度加わっておりますので、そういう視点で、今までの５年の行政計画では補助金等の削減、あるいは職員を減少して削減というのが多かったんですけど、これからは公共工事とか、そういうのをいかに民間と共同してリスク、あるいは財政を減少させていくというふうな方向があると思いますので、今後の第２次行政改革にぜひ期待をしております。そういうことで、やっと32年度に0.421とかになりますので、ぜひ、これは今後５年間の市長の市政運営にかかっていくと思いますので、市長にもう一度そこのところをお伺いしたいと思います。４年間をですね、本当に財政を健全化の方向に向かって施策を展開していかれるかどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

この財政の健全化ということにつきましては、いろんな見方があるわけでございまして、今の自主財源の比率につきましても基金との兼ね合いでいろいろ変わってくるわけでございますので、一概には言えないというふうに思います。

そういう中で、私どもは将来的な課題をクリアするために今回いろいろ合併特例債の課題等についての新しいお願いもしておるわけでございまして、また、交付税の算定がえ等につきましても、いわゆる私どもの合併した市町で組織をつくりまして国のほうに今要望を行っておるところでございまして、できるだけ算定がえの時期等についてですね、いわゆる柔軟な姿勢で行っていただきたいということで、要望書も出して今、国に要望しているところでございますので、そこら辺につきましては、私どもが努力するところはしっかりやっていきたいというふうに思っております。しかしながら、あくまでも財政の課題で将来嬉野が困らないようにということは日夜考えて努力をしておるところでございますので、議員御発言のように、いろんなもし無駄な費用がありましたら、節約をしながらしっかりやっていきたいというふうに思っておるところでございます。

それと、先ほどお答えで遅くなりましたけど、日本一の何を重点的にという話をされましたけど、さきのお尋ねにお答えしましたように、今回私は福祉の政策の中で特に障がい者をお持ちの御家庭の方とか、障がいをお持ちの方への政策をぜひ日本一になれるように努力をしていきたいということで決意をしておりますので、ぜひ御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

本当に今後の市長の施策について財政状況を重んじながら展開していくということですので、ぜひそういう面でお願いいたします。

３番目があったんですけど、今後取り組む大型事業と事業計画及び事業費についてというので、新幹線周辺整備計画と農集排公共事業を上げておりますけど、これも18号で説明をしていただくと思います。それに、先ほど農集排公共下水道整備事業については、平成26年度に整備構想の見直しで今度整備事業を進めていくということで、そういうことで理解してよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

これからの動き方でございますけど、先ほど申し上げましたように、できるだけ早くと思っておりますけど、この１年から２年の間にそのような計画をつくり上げまして、着手へ向けて努力をしていきたいというふうに思っておるところでございます。

前年度でいわゆる審議会の意見をまとめさせていただいて、何種類かの手法が出てきておりますので、そこらについて十分検討をして、そして議会のほうに御相談しながらできるだけ早くやっていきたいと思っております。ですから、26年度ということじゃなくて、１年から２年間をかけてということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

それでは、特別会計の大型事業については、整備構想のできた段階でまたお願いいたします。

３番目に、耐震改修促進法改正による耐震対策緊急促進事業というのが平成25年の11月に国土交通省から改正が行われております。平成25年11月25日にですね。それで、今回の改正のポイントは、病院、店舗、旅館等の不特定多数の方が利用する構築物及び学校、老人ホーム等の避難に配慮を必要とする方が利用する建築物のうち大規模なものなどについて耐震診断を行い報告することを義務づけし、その結果を公表することとしております。

それで、また耐震改修を円滑にするために、耐震改修計画の認定基準が緩和され、対象工事が拡大され、新たな改修工法も認定可能となり、容積率、建蔽率等の特別措置が講じられております。また、一番最後に、さらに耐震性に係る表示制度を創設し、耐震性が確保されている旨の認定を受けた建築物についてその旨を表示できることになりましたという改正案が出ております。問題は嬉野市でこの耐震の対象になる旅館等があると思いますけど、どれぐらいの対象の旅館が――旅館、あるいは病院、店舗等がありますでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

議員が御発言された資料については十分承知をいたしておりますけれども、私どもはまたその後いろいろ動きをいたしておりまして、全国の温泉所在地の市長の会にも入っておりまして、その案件についてですね、私どもの会として国のほうに意見書等も出させていただいて、若干その動きが出てきております。

そういうことで、閣議決定がなされたわけでございますけれども、私どもはその閣議決定

の後ですね、すぐ動いておるところでございまして、現在私が承知している範囲では嬉野市内の旅館については数件ということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

数件でその耐震の診断に対する耐震工事がまだわからないんですけど、大体どれぐらいの予算と言えるんですかね。見積もりがあるんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

数件の建物の持ち主の方からお話も承っておりますけれども、いわゆるお一人の方のお話では全体がかかわるわけじゃなくて、その中の一部とか、あるいは増築とか改築とかなされておりますので、そこらがかかってくるということでございますので、まだ具体的にですね、いわゆるどこがどうなるというのはまだはっきり決まっていないということでございますが、調査にもお金がかかりますし、また、補強工事とか改築とかになりますと、大きいところでは数億円単位のお金がかかってくるというふうに承っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

この案件に対しては国、県とかの補助が出ているようですけど、嬉野市としてはどういう補助というですか、そういうのを考えていらっしゃいますでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在、県のほうで動きがありますので、それを注目しておるところでございまして、私どもにつきましては、御承知のように、今回骨格で出しておりますので、まだこれについては取り扱いをしておらないということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

嬉野市全体の温泉を再生するというような、何というんですかね、この改正案についてですね、温泉全体を改正するというような、そういう国の方向もあるというふうに聞きましたので、やはり数億円から１つの事業所に対して数億から数十億円、あるいはそれを改築してしまうにはやっぱり数十億円というお金がかかりますので、嬉野市の旅館、嬉野市温泉の旅館の、何というんですかね、今後発展していくか縮小していくか、そういう重要な問題になると思います。それで、これは早急に対策をしていただきたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いわゆるこの問題につきましては、国、県も動いておりますし、その前提がまず調査ということになります。どこまでどの建物が必要かという調査をしなくてはならないというふうになっておりますので、調査をしていただきますとおのずからですね、例えば、改築するには幾らというのが出てくると思いますので、そこらはやはり民間の業者の判断だというふうになりますけれども、私どもとしては、私どもだけで支えられる問題ではないわけですので、国、県と協議をしながらやっていかなければならないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

もちろんそのようにしていただけると思います。ただ、そのときに嬉野市の旅館街というのは何か情緒がある旅館街とか、ちょっとけばけばしいところがあります。というのは、高速をおりてから藤棚とかありますよね、きれいなところで一番交差点に着いたら、ちょっと文句は言うわけじゃないです、状況を言うんですけど、黄色と赤のですね、あの看板が立っていて、あ、これが最初に温泉街に入ったときのイメージですよね。やっぱりよそに入ったときは、何かその温泉のイメージというのがありますので、そういう景観条例とか、そういうのを加味した総合的な改革でこの案件を推進していただければと思います。よろしいでしょうか、あと一回だけ質問を。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

景観に関しては条例等もつくっていただきましたので、全部を縛るということはできませ

んけれども、いろんな御相談をしながらやっていきたいと思います。

また、今回の問題につきましては、それぞれのお持ちのホテル、旅館で状況が違いますので、状況をしっかり把握していただいて、それからの対応だというふうに思っております。全体にかかるということでもないわけでございますので、そこらについては改築年度、増改築年度等も加味をしながら、それぞれ民間の方が方針を出されると思いますので、また県、国とも協議しながら対応していただければと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

ぜひ早急に指針を出していただきたいと思います。よろしくお願いします。

それから、街なみ環境整備事業についてお伺いいたします。

この街なみ環境整備事業はですね、資料をいただいたんですけど、23年度からは社会資本整備総合交付事業に移管しているということで資料をいただいました。これも議案の中に出ておりましたので、防災とか公園整備のほかにお聞きしたいのは、一番メーンで今回お聞きしたいのは、平成７年、８年ぐらいに多分リフレッシュ・マイタウン事業化で道路の美装化をしていただきました。今、塩田工業の大型車両が通っておりますので、せっかくのカラー歩道ですね、舗装整備した美装化事業がちょっともうあれでは台なしになっているという状況にあると思います。それで、今後どのようにあれをしていかれるのか、そこをちょっと市長ですか、教育長、街なみ環境整備事業ですので、そこら辺をお聞きしたいんですけど、どちらの事業で、この社会資本整備事業で行われるのか、まず、その補修をどのようにしていただくか、お伺いしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

地区全体の整備ということでございましたけど、関係ある場所についても先般地域の方から御要望等も出ておるところでございますので、私どもとしてはその市道の整備の状況によってですね、市道の整備の予算をまず仕込むわけでございますので、そういう予算の中で対応できればというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

塩田工業の工事の関係もあってですね、一応、校長先生のほうにもちょっと業者の方に言っていただくような形で、終わる前までには言ってはおります。今、仮にアスファルトの黒っぽいので５カ所ぐらいですもんね、一応念のため写真は撮っておりますけれども、そういった形でお願いはしているところでありますけれども、なかなか市道という関係で県もちょっと動かんのではないかというようなことも思っているところです。

以上です。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

そこが社会資本整備総合交付金事業で行われるのか、県費で行われるのか、そこら辺がちょっとわかりませんけど、県の車両がああいうふうにしております。それで、ぜひ県にも申し入れをしていただければと思います。

それと、もう１つは、今、中学校ですかね、中学校の工事があっておりますので、以前は伝建地区への観光の大型バスがぷらっとのところに駐車をしていただいていました。それが伝建地区に今は入っております。それで、西側のほうは大型車両でと思います。東側のほうは多分観光用の大型車両、大型バスが入ってあっちのほうが傷んでいるんじゃないかと思うんです。伝建地区は大体市営の駐車場が整備してあります。大型の市営駐車場を整備するというのはまだ難しい問題ですけど、今後また大型が入れば、あそこがせっかく修理していただいたのが、すごく汚く、また整備しなきゃならないようになりますから、そこら辺をですね、大型の観光バスの駐車場ですね、どのように考えていらっしゃるか。観光課ですかね、これ管轄。（発言する者あり）お願いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在、文化会館とそれから中学校が改築中でございますけれども、そのいわゆる機能の回復ということができるわけでございまして、いわゆる大型、今までですね、あの周辺に駐車いただいた大型につきましては、中央公園周辺ということをまず想定いたしておりますので、文化会館をぐるっと回っていただいて中央公園の駐車場をお使いいただければということで考えてはおるところでございます。まだ具体的にどの場所というのは決めておりませんけど、あのときの協議ではそのようなことでございました。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

ぜひ大型バスの駐車場というのを確保していただきたいと思います。そうしないと本当にせっかく整備されたカラー歩道がまた修理をしなきゃならないようになりますので。

それと、もう１つお願いがあります。というのが、さっき市長がおっしゃったように、障がい者の支援というのを大事に考えていきたいというふうにおっしゃいました。伝建地区にも多分今月末に障がい者がいらっしゃいます。観光案内をいたします。以前も車椅子の方に来ていただきました。カラー歩道は車椅子無理です。やっぱり西岡家の前まで、そのとき車で来ていただいたので、おろしていただいて西岡家ですね。それからまた、本応寺のところまで行って本応寺でおろして、至るところでおろしていただいて、だから、車椅子は無理なんですよ。だから、今後はですね、今後どうせ修理を――どうせやないですけど、修理をお願いするならそのバリアフリーに対応した車椅子が通れる歩道をですね、それをぜひお願い。ときどき車椅子障がい者の方が本当に観光にお見えになります。遠くからお見えになります。それで、すごくここは体験事業もありますので、志田焼とか体験をして、カップを持って喜んで帰っていただきます。ですから、やっぱりバリアフリーを日本一にということでしたら、そういう車椅子が通れるカラー歩道ですね、そういうのをぜひお願いしたいと思います。

以上で、今回は議案18号がありましたので、施策までは行かないつもりで一般質問をさせていただきました。――あっ、これの答弁をいただいてよろしいでしょうか。車椅子が通りやすい歩道を整備というのをお願いしたいんですけど、市長でよろしいですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在、バリアフリーツアーセンターから管理の人が１人派遣されていると思いますけれども、そこらについてはもう一回話を聞かせていただいて、どのような形でやったがいいのか、どの程度、御不自由になっておられるのか、もう一回確認をさせて対応できたらと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

芦塚議員。

○11番（芦塚典子君）

以前、バリアフリーツアーセンターの方からモニターツアーをしたことがあるんです。障がい者の方をですね。そのときもできなくてずっと途中途中でその障がい者の方をおろしてですね、あそこがもう通れないというか通りにくいんで、そういうことをしたことがありますので、ぜひそこのところを前向きに検討していただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（田口好秋君）

これで芦塚典子議員の一般質問を終わります。

一般質問の議事の途中ですが、ここで15時まで休憩いたします。

午後２時42分　休憩

午後３時　　再開

○議長（田口好秋君）

それでは、休憩前に引き続き、一般質問の議事を続けます。

15番織田菊男議員の発言を許します。

○15番（織田菊男君）

議席番号15番織田菊男でございます。議長のお許しが出ましたので、通告に従い、一般質問を行います。

今回は、嬉野市の人口減少対策、農商工連携、小・中学校土曜開校の３件についてお伺いいたします。

まず最初に、嬉野市の人口減少対策についてお伺いいたします。

合併時、約３万400人の人口が８年後の今、２万8,000人を下回りました。毎年、平均で約300人の人口の減少がございます。人口の減少の原因はいろいろあると思いますが、市では、この件に対して調査も済み、対策も行っていると思います。

前に、日本国内での人口の変動の推計が公表されました。佐賀新聞でも市町村別の人口の推計が昨年示されていますが、嬉野市自体の人口の推計より少ないように思いました。

新聞を見てみますと、他市町と比較して、人口の総数に対して死亡者が多いように感じます。市の年齢別構成は、どのようになっていますか。

人口の減少は、市の産業や市民の生活に大きな影響があると思います。市は前の推計を見直し、現状に沿った計画に変え、どうしたら人口の減少を食いとめて、活力のある嬉野市になるよう計画を市長はお持ちと思います。

これで、この席での質問を終わります。あとは質問席で行います。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対し、答弁を求めます。市長。

○市長（谷口太一郎君）

織田菊男議員のお尋ねについてお答えを申し上げます。

お尋ねにつきましては、嬉野市の人口減対策についてということでございます。

年齢別構成等のお尋ねでございます。平成26年１月31日現在の住民基本台帳登録人口データの嬉野市５歳ごと毎年齢別人口調べによると、15歳未満の年少人口が3,612人で、全体に占める割合が12.9％、15歳以上65歳未満の生産年齢人口が１万6,376人で58.51％、65歳以上の老年人口が8,002人で28.59％となっております。これは平成18年の合併時直近のデータと

比較しまして、年少人口で、15.01％から2.11％の減少、生産年齢人口で、60.46％から1.95％の減少、老年人口で、24.53％から4.06％の増加となっております。全国的な少子・高齢化の波が嬉野市にも大きく影響しつつあると言わざるを得ないところでございます。

また、人口減に対する、現在取り組みについてでございます。

人口減の対策としてはさまざまなものがございますけれども、平成20年７月より開始しました転入奨励金制度により、平成26年２月末までに79件、235人の方に転入していただいております。また、持ち家奨励金を御利用いただいた方も114件、417人にのぼり、合計193件、652人の人口減抑制効果はあったと考えております。

今後、さらなる転入者への呼び込みに向け、より魅力的な制度になるよう、今回条例改正案の御審議をお願いしているところでございます。

また、より多くの方の目にとまるよう、広報活動により一層努力してまいりたいと思います。加えまして、保健福祉等の施策を機能的に融合させ、人口減に対して努力をしてまいりたいと考えておるところでございます。

以上で織田菊男議員のお尋ねについて、お答えといたします。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

まず最初に、人口の減少を食いとめるためには市の魅力が必要と考えます。市長は嬉野市の魅力はどんなところか、また今後どのような形で進めようか、その点は、どう思っておりますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えいたします。

嬉野市の魅力ということにつきましては、以前からもいろいろお話ししておりますように、やはり交流人口の増加に対する期待ができるということでございまして、観光客の皆様初め、やはり嬉野市にお出かけいただく、そういう方々のいわゆる魅力ある温泉としての位置づけということが定着はしているというふうに思っておりますので、そのことが増加するように努力をしてまいりたいと思います。

そしてまた、それぞれの産業の中でも、いわゆる農業等につきましては後継者が育ちつつありますので、ここらについてもしっかり後継者育成ということで、連携をしてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

また、私どもといたしましては、以前からお話ししておりますように、この合併後、地域コミュニティをそれぞれ小学校区に誕生させたわけでございますので、この地域のつながり

というものをより以上に深くして、やはりこの地域の魅力というものを加えていくということが大事だろうというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

織田君。

○15番（織田菊男君）

今回、今度は企画部長に質問いたします。

今の質問と同じ質問をいたします。企画課としては、どういうふうに思われますか、企画部長として。

○議長（田口好秋君）

企画部長。

○企画部長（小野彰一君）

お答えします。

先ほど市長も申し上げましたとおり、以前の議会でも、こういう人口につきましては数々の議員の方から御質問をいただいております。

また今は、嬉野市の魅力ということで、また、別な角度から御質問をいただきましたが、私のほうも市長同様、今までの嬉野市の交流人口の増という期待を込めまして、そのことも私は一つの魅力だというふうに感じておりますし、また、市長も申し上げましたが、地域コミュニティの設立に伴いまして、今後は地域力のアップというふうな形で魅力的なことができるんじゃないだろうかというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

今度は産業振興部長に、同じ質問をいたします。

○議長（田口好秋君）

産業振興部長。

○産業振興部長（一ノ瀬　真君）

お答えいたします。

まずは温泉があるということですね。しかも、その温泉が非常に肌にいいと。しかも、その温泉で炊いた温泉湯豆腐が非常においしいと。それと、お茶も米も肉も日本で誇れるような、非常においしいものであるということだと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

また同じ質問ですけど、健康福祉部長にお願いします。

○議長（田口好秋君）

健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉野昌生君）

お答えいたします。

私は、個人的には郡部の地域で育って、今も生活をしております。非常に日本の原風景の中で、安心して生活できるというところに、私個人としては魅力を感じているところです。

あと人口対策に関しましては、健康と福祉の分野を担当する立場としましては、子育て支援のもろもろの施策、この充実――医療を含めてですが、充実させることで、生産人口世代の方々を引きとどめて、さらには、市外からの転入を増加させるという部分で、人口減少の対策に寄与できればというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

もう１つ、最近、企業が全く嬉野市には進出していないと。やはり働くところがなかったら、どうしても人口もふえないというふうな考えを持っております。

人口対策としての企業の誘致は、どのような形で考えておいででしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

企業誘致につきましては、企画を中心に私どもも努力をしているところでございます。問い合わせ等はございますけれども、まだ成約できていないということで、できるだけ努力をしてまいりたいというふうに思っております。それに加えまして企業誘致が、まだできておらないというふうなことでございますので、私どものいわゆるその人口の定住促進につきましては、やはり近隣の市町への進出企業等につきましても対象として入れていこうということで、努力をしておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

今の質問に対してちょっと関連ありますが、人口減でですね、第１次産業、第２次産業、第３次産業の割合、おる人員がどういうふうな形になっているか。そしてまた、嬉野市で働く場所がふえるということは人口が増すということで、ふえる産業はどのようなものを考えておいででしょうか。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午後３時11分　休憩

午後３時11分　再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（田中秀則君）

お答えを申し上げます。

今、嬉野地区と塩田地区に分けての数値しか持ち合わせておりませんけども、第１次産業については、嬉野地区については22年の国勢調査の折、11％、塩田地区につきましては8.6％、それから第２次産業につきましては、嬉野地区21.3％、塩田地区については31.4％、第３次産業でございますけども、嬉野地区が66.7％、塩田地区が59.7％でございます。

以上でございます。（「ふえる産業は、どのような考え方でしょうか」と呼ぶ者あり）

ふえる産業と申し上げますと、これからいろいろと魅力のある部分については、いろいろあるかというふうに思いますけれども、これからについては、情報関連産業とか福祉関係、そういうふうなものが今後よくなるのではないだろうかというふうに思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

今までの答弁で企業進出が、どうもこれは可能性がないというふうな考えを私は今いたしましたので、市内の産業を活性化して１人でも多く雇用されるように考えるべきじゃないかと思います。そのためには、市も事業の活性化のために補助金などで対応すべきじゃないかと、そのような形で考えますが、市長はどのような形で考えますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

冒頭から申し上げておりますように、やはり嬉野の魅力は交流人口ということでございま

して、交流人口増を図るためには、やはり第３次産業の活性化ということだろうと思っておりまして、これはもう以前の議会でも十分御承知をいただきながら、観光予算、また、その他、誘致予算等もお願いをしておるところでございまして、そういう点では引き続き、努力をしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

さっき言われましたが、定住奨励金は、大きな要素と私も考えております。市長も、そういう形で言われましたが。今後ですね、その定住奨励金の場合、どのような形で進められますか。もっと補助金をふやすと、もっと待遇をよくなすという点は、どのように考えますか。（「議案がある」と呼ぶ者あり）ああ、議案か。すみません、訂正します。

若い人が定住するためには、これは、人口をふやすのが一番大きい問題だというふうな考えを持っております。若い人が定住するためには、環境の問題、学校のいじめの問題などが考えられると思います。こういう点で子どもの環境、学校のいじめの問題などは、どのような形で対応をされますか、教育長。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

学校でのいじめの対応ということでございますけれども、嬉野市では、前年度――前々年度ですね、いじめ防止対策支援委員会を立ち上げて、佐賀県でもいち早く条例を設置しておりまして、いじめがない学校現場ということでしておりますので、そういうものがまず、条例化してきて対応をしているというのが一つでございます。

それからもう一つは、「生きる力」の教科書の中でも、特に中学校の段階では活用してきておりまして、この２年間指導してまいっておりますので、その「生きる力」の教科書を活用した対応あたりで、随分、解消に努めているというところもございます。

もちろん教育のほうでは道徳教育ですね、ここは、毎週１回、年間35週を計画しております。そういうものをあわせてしておりますし、特別な場合としては、特学あたりでも対応をしているところでございます。

それから、市独自としてはパンフをつくっております、昨年度ですね。そして、学校ではこの児童・生徒用、それから教師用、それから保護者・地域用というふうな形で対応してきておりますので、そういう点では、今のところ、大きないじめにつながっているケースはございません。そういったことで、対応をしているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

次は、新聞で税金の滞納が非常に嬉野は多いということで、これは何年でん前から、いつもこういうことが出ております。だけど、滞納が多いまちに若い人が住むかなというふうな考えを持っておりますので、税金滞納に対して、もっと――固定資産税が一番滞納が多かったと。固定資産税のもうこれは絶対に取れないというのは、もっと早く落とすべきじゃないかと思いますが、そういう点はどういうふうに考えますか。（「暫時休憩」と呼ぶ者あり）

○議長（田口好秋君）

はい、暫時休憩します。

午後３時18分　休憩

午後３時18分　再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

織田議員。

○15番（織田菊男君）

今、人口をふやすために、結婚をさせるというふうな方向で市役所にも地域づくり・結婚支援課があります。また、何年か前より活動もされております。これですね、いつごろから始められて、イベントに参加した人間、それから、結婚された人間が大体どのくらいいますでしょうか。それから、経費の問題ですね。

○議長（田口好秋君）

地域づくり・結婚支援課長。

○地域づくり・結婚支援課長（山口久義君）

お答えいたします。

急に振られましたので、数字等を持ち合わせておりませんけれども、今年度までで５組の方が結婚されたということで（発言する者あり）５組ですね。いわゆる以前の議会でも申し上げておりますように、現在進行形の方もいらっしゃいますので、あと早期に御成婚まで行かれるような形でお願いをしたいと思っておりますけれども、いろんな事業も今年度もまた、県の事業等も入れながら、事業としては担当頑張っておりますので、これからもそのような減少対策としての一環になればなというふうには思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

織田議員、質問の通告書から余り外れないようにお願いします、よろしいですか。織田議員。

○15番（織田菊男君）

次は、農商工連携について質問いたします。

ここ数年、日本国自体の景気も悪かったのですが、昨年ぐらいより、アベノミクスによって大企業は利益があるが、中小企業はほとんど変わらないと聞いております。嬉野市には大企業はございません。中小企業、零細企業で景気がいいという話をほとんど聞きません。農業に対しても耕地の遊休、耕作放棄地の増加、農業者の高齢化で農地の保全が一部できないようになっているところもございます。工業での利用可能な農産物が市内で生産されているのか、また、商業者が扱える品物はあるかと考えております。

現在、ＴＰＰの話し合いが進んでおり協定が集結されれば、市内の農商工に大きな影響があると考えております。この影響を少しでもやわらげるために、市長の言われる嬉野ブランドつくりを進めるべきと思います。

県外の他市では、産学官の連携で大きな成果を上げているところもあると聞いております。このような点は、市長はどのような形で進まれますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

今、農商工連携、それから産学官共同、非常に重要なことであるというふうに思っておりまして、先ほどもお答えしたとおり、現在、佐賀大学を中心としたグループで２つ私どもの関連する、いわゆる産学官の研究が始まっておりますので、非常に期待をしているところでございます。

また以前からですね、例えば、塩田地区のお酒の醸造元につきましては、塩田で酒米をつくっていただいて加工されて全国的に販売しておられるということで、そういう連携は、十分できておるところでございます。

また、温泉湯豆腐につきましても嬉野市内でできた大豆で、嬉野の旅館関係が湯豆腐をつくって全国に販売をしておられるわけでございますので、そういう点では非常にうまく動いているというふうに思っております。

それに加えまして、以前からお茶あたりもですね、お茶を飲むということではなくて、お茶の――いろいろお茶を使ったお菓子とか、また旅館で今御使用いただいているシャンプーとかリンスとか、そういうものもできておりますので、ほかの自治体と比較しますと、非常にうまくいっているというふうに思っております。

ただ、売り上げ的には、まだ厳しい状況でございますので、そういう点をしっかり一本立ちできるように努力をしていきたいというふうに、御支援を申し上げていきたいというふうに思っております。

また最近は、紅茶とか、ほかのものも、いろいろメーカーさんとの共同ということでできっ始めておりますので、非常に期待をしておるところでございます。

また先般、東京でございました、いわゆるギフトショーにつきましても、嬉野市のコーナーも非常に上手に仕上げていただいてですね、そしてお酒と、それから焼き物とお茶と、お米まで出していただいたということで、これは回数を重ねることによって、やはりブースが定着してくれば、お客様にもつながっていくというふうに思っておりますので、今後とも努力をしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

今は前質問したときと同じような説明をされましたが、現在、嬉野市で、農商工の連携は聞いたことございませんが、あっていますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

今お話ししたもの全てが、農商工連携が実現している例として、お話をさせていただいたところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

農商工連携を行う場合、今後どのような作物が有望と考えられますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

やはり生産量の問題もございますので、一番将来的にも伸びていくであろうと考えるのは、このお茶関係がやはり安定した、いわゆる製品の質と量がございますので、十分伸びていくんではないかというふうに思っております。

そしてまた今、全国的にもですね、特に嬉野地区のお酒については高く評価をいただいておりまして、日本酒のブームでございますので、そういう点では非常に伸びていくんじゃないかなというふうに、期待をしておるところでございます。

そしてまた温泉湯豆腐につきましては、大豆のいわゆる生産量の問題がございますけれども、そこをうまくクリアしていければ、非常に珍しい嬉野の物産として、非常に受け入れていただく伸び代といいますか、そういうものは、非常にあるというふうに期待をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

今言われましたが、連携を行うときに何件かこういうふうな形であっていると、これは補助金の今対象になっているか。それから新しくする場合も、補助金はどのような場合に対象になるか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

現在、それぞれの組織団体で御努力をいただいておるところでございまして、また、ＪＡさんと生産団体等が提携されました場合については、その生産団体等の、いわゆるいろんな助成制度ということで、御努力をいただいているというふうに思っております。

また、国が取り組んでおりますような、農商工連携のような大規模投資ということはまだ出てきておりませんので、現在まで対象としたことはございません。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

これはやはり農業関係、工業関係、商業関係が協力をしなかったら、できないと思います。これが、市長が思われるところではできるかできないか、どのような関係が一番、工業関係、商業関係は乗りやすいか――要するに、利益があるかということです。

今言われましたが、お茶はいいんじゃろうと、量もあるし、質的にもいいと。ほかにそういう点が乗れるか。そしてまた、加工するところがどっかなかったら、これは加工もできないというふうな形になります。だから、そのような加工ができるような工場関係、そういう点は、嬉野市内にございますでしょうか、対象になる場合ですね。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

大規模工場ということになりますと、先ほど申し上げましたように、日本酒の醸造メーカーさんについては、大規模工場の中に入っていくんじゃないかなと思っておりまして、その中の、いわゆるその酒米というものを、地元産を御使用いただける場合については、十分連携ができるというふうに思っておるところでございます。

あと、お茶等はもう既に工場ができておりますので、あとはそのメーカーさんとの提携ということですけど、これにつきましてはやはりメーカーさんの、いわゆる招致産業でございますので、そのメーカーさんの規模によって変わってきますので、できるかできないかはなかなかですね、ちょっと今のところでは、判断できないというところでございます。

また、温泉湯豆腐につきましては、既に一つの流れができ上がっておりますので、それ以上となると、なかなか今のところ厳しいんじゃないかなというふうに思っております。やはり大豆の生産量の問題もございますので、現在でも非常に厳しい中で御協力をいただいているというふうに承っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

次は、小・中学校の土曜日開校について質問いたします。

国がゆとり教育を廃止して、教育内容が多くなっています。これに対して、市の対応はどういうふうなお考えをお持ちでしょうか。

前の一般質問のときに、全国学力テストの成績は、市内の学校は平均以上と説明されました。

今のままでは学力が下がる可能性があると思いますが、教育長はどのような形を考えられますか。

福岡県は、政令都市を除く、全市町村を対象に、教員ＯＢや外部講師による土曜授業を導入すると決めました。佐賀県も、新年度、学力向上へ基礎固めに、小・中学校で土曜に補習授業を始めると、２月23日の新聞に載っておりましたが、これに対して、教育長はどのような考えをお持ちでしょうか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

お答えを申し上げたいと思いますが、学校の土曜開校についてということでございますけれども、本年度、市内の小・中学校で文化発表会を土曜日にした学校が１校ございます。そのほかに、授業や学校行事等を土曜日に実施している学校はありません。

土曜日開校についての今後の考え方についてお答えをいたしますと、これまでも議会等でお答えしてきておりますが、県が打ち出しております。古川知事がマニフェスト2011の中で出しておりますけれども、「土曜日等」という表現をしております。そこでいきますと、１つ目には、授業時数の確保、２つ目には、ＩＣＴを使った学習や外国語学習、補充学習などによる学力向上、３つ目には、地域と連携した体験学習などの特色ある学校づくりというふうなことで、これも報道関係から報道されているところでございます。

したがって、嬉野市内の小・中学校では長期休業中にサマースクール、それから、寺子屋学習、あるいは補充学習、そういうものを各学校実施をしてきております。

さらに、この平成25年度からは新たに、古川知事のマニフェストの「土曜日等」の「等」のところは長期休業中が入るわけでございますので、そこでいきますと、夏休みを５日間短縮いたしまして、今年度、全小・中学校、５日間の授業を確保しているところでございます。

そういったことで、土曜日の開校については対応しているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

大体わかりましたが、土曜日開校と学力の関係は、どのように教育長は考えておいででしょうか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

土曜日の開校と学力との関係についてでございますけれども、学力向上の方策の一つとして、補充学習の充実が上げられます。基礎基本の定着を図る上で、個々に応じた補充学習を行うことは、学力向上を図る上で有効だというふうに思っております。

では、その補充学習をいつ行うか。例えば、土曜日に行うのか、あるいは、課業日の放課後や教育課程の中で時間を生み出していくのか、夏季休業中を活用するのか、時間の生み出し方はいろいろあるかと、出てくるものと思います。

土曜日に行った場合、児童・生徒の中には、土曜日に授業をして日曜日は部活動、あるいは、社会体育等の試合等により出るわけでございますので、２週続けて、ずっと活動していくというふうなことで負担も考えられるというふうに思っておりますので、そういった意味では、補充指導の効果や児童・生徒の負担、あるいは課業日や教育課程の中での時間の生み出し方の工夫を含めて、判断していく必要があるのではないかというふうに思っているところでございます。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

それから、佐賀県でもベテラン教員を学力推進教員として、県内の５地区に１人ずつ配置し、学校で若手教員に助言する取り組みを14年に始めるということでございます。これに対して、利用する考えはございますか、どのような形で、また利用されますか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉﨑士郎君）

今の学力向上指導員ということで県が県費で雇って、５事務所に１人配置をするということで今計画をされておりますので、それが入りますと、嬉野市についても十分活用してまいるつもりでおります。それと同時に、吉田中学校は学力向上県指定を受けて、25年度が２年目でありますので、そこについても、十分なる対応をしてまいりますし、さらには、県が制度としてスーパーティーチャーの募集をしておりますので、今、市内からもスーパーティーチャーについては中学校と小学校に１名ずつお願いをしてきておりますので、そういう方を確認しながら、学力向上アップに取り組んでいきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

織田議員。

○15番（織田菊男君）

これで私の一般質問を終わります。

○議長（田口好秋君）

これで織田菊男議員の一般質問を終わります。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

午後３時36分　散会